

Q0001

5-1 基本運転 > 運転前確認・操作装置 | 難易度：基礎 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「経路確認をせず、荷を地切りしてから進路を決める」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：油漏れや異音を見つけても、作業終了まで運転を続ける。

イ：安全装置を一時的に無効化して作業性を優先する。

ウ：荷の質量、作業半径、経路、荷卸し位置を確認してから操作を開始し、安全を確認してから作業を進める

エ：異常表示があっても、まず荷をつってから原因を考える。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。異常の兆候を認めた状態で運転を続けず、停止して点検・整備する必要がある。

イ：誤り。安全装置を無効化してはならず、警報の原因となる作業条件を見直すべきである。

ウ：正しい。実技試験・実技教習では、質量の確認、荷のつり上げ、定められた経路による運搬、定位置への卸しが基本要素である。

エ：誤り。実技試験・実技教習では、質量の確認、荷のつり上げ、定められた経路による運搬、定位置への卸しが基本要素である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

総合解説：実技試験・実技教習では、質量の確認、荷のつり上げ、定められた経路による運搬、定位置への卸しが基本要素である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0002

5-1 基本運転 > 運転前確認・操作装置 | 難易度：応用 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「レバー位置を確認せず始動し、機械が動けばその時点で戻す」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：安全装置を一時的に無効化して作業性を優先する。

イ：異常表示があっても、まず荷をつってから原因を考える。

ウ：作業計画や荷の質量を確認せず、定格荷重表は必要になってから見る。

エ：各操作部が停止位置にあることを確認してから始動し、安全を確認してから作業を進める

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。安全装置を無効化してはならず、警報の原因となる作業条件を見直すべきである。

イ：誤り。操作部の種別・方向・停止位置は運転者が確認できる構造とされ、意図しない作動を防ぐため始動前確認が重要である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

ウ：誤り。定格能力は作業半径・ジブ条件・アウトリガー張出し幅等に応じて確認する必要がある。

エ：正しい。操作部の種別・方向・停止位置は運転者が確認できる構造とされ、意図しない作動を防ぐため始動前確認が重要である。

総合解説：操作部の種別・方向・停止位置は運転者が確認できる構造とされ、意図しない作動を防ぐため始動前確認が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0003

5-1 基本運転 > 運転前確認・操作装置 | 難易度：標準 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「異常の程度は荷をつってみないと分からないので、そのまま地切りする」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：運転を始める前にロープ、フック、外れ止め等を確認し、異常があれば使用を中止して処置し、安全を確認してから作業を進める

イ：周囲確認を省略し、合図者だけに安全確認を任せる。

ウ：警報装置の作動確認は本番作業中に行えばよい。

エ：異常表示があっても、まず荷をつってから原因を考える。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。つり上げ装置の異常は荷を掛ける前に確認し、異常を認めた状態で運転を継続しないことが安全運転の基本である。

イ：誤り。つり上げ装置の異常は荷を掛ける前に確認し、異常を認めた状態で運転を継続しないことが安全運転の基本である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

ウ：誤り。警報は能力限界への接近等を知らせる安全情報であり、無視して作業を続けてはならない。

エ：誤り。つり上げ装置の異常は荷を掛ける前に確認し、異常を認めた状態で運転を継続しないことが安全運転の基本である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

総合解説：つり上げ装置の異常は荷を掛ける前に確認し、異常を認めた状態で運転を継続しないことが安全運転の基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0004

5-1 基本運転 > 運転前確認・操作装置 | 難易度：標準 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「警告灯は見えにくくすれば気にならないので覆って作業する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：作業計画や荷の質量を確認せず、定格荷重表は必要になってから見る。

イ：警告表示の意味を確認し、異常が解消されるまで荷役操作を開始しない

ウ：操作方向を確認せず、経験だけでレバーを動かす。

エ：異常表示があっても、まず荷をつってから原因を考える。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。定格能力は作業半径・ジブ条件・アウトリガー張出し幅等に応じて確認する必要がある。

イ：正しい。始動後は計器・警告表示や機械状態を確認し、異常がある場合は原因を確認して安全を確保する必要がある。

ウ：誤り。操作方向や停止位置を確認しない始動・操作は、意図しない機械動作につながる。

エ：誤り。始動後は計器・警告表示や機械状態を確認し、異常がある場合は原因を確認して安全を確保する必要がある。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

総合解説：始動後は計器・警告表示や機械状態を確認し、異常がある場合は原因を確認して安全を確保する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0005

5-1 基本運転 > 運転前確認・操作装置 | 難易度：基礎 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「作業能率を上げるため警報だけを切り、能力確認を省略する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：始動直後から高回転・急操作で各装置を動かす。
- イ：周囲確認を省略し、合図者だけに安全確認を任せる。
- ウ：安全装置を有効に保ち、警報の原因となる作業条件を見直す
- エ：油漏れや異音を見つけても、作業終了まで運転を続ける。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。過負荷防止装置等は有効に保持し、定格荷重を超える荷をつらないことが安全上の基本である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

イ：誤り。過負荷防止装置等は有効に保持し、定格荷重を超える荷をつらないことが安全上の基本である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

ウ：正しい。過負荷防止装置等は有効に保持し、定格荷重を超える荷をつらないことが安全上の基本である。

エ：誤り。異常の兆候を認めた状態で運転を続けず、停止して点検・整備する必要がある。

総合解説：過負荷防止装置等は有効に保持し、定格荷重を超える荷をつらないことが安全上の基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0006

5-1 基本運転 > 運転前確認・操作装置 | 難易度：基礎 | 形式：複合

実技練習中、運転者が「各作業者が自分の判断で異なる合図を出す状態のまま開始する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：安全装置を一時的に無効化して作業性を優先する。
- イ：作業計画や荷の質量を確認せず、定格荷重表は必要になってから見る。
- ウ：始動直後から高回転・急操作で各装置を動かす。
- エ：作業前に一定の合図と合図者を確認し、必要な警報装置も使用できる状態にし、安全を確認してから作業を進める

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。安全装置を無効化してはならず、警報の原因となる作業条件を見直すべきである。

イ：誤り。定格能力は作業半径・ジブ条件・アウトリガー張出し幅等に応じて確認する必要がある。

ウ：誤り。移動式クレーン作業では一定の合図を定め、合図者を指名して連携することが原則である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

エ：正しい。移動式クレーン作業では一定の合図を定め、合図者を指名して連携することが原則である。

総合解説：移動式クレーン作業では一定の合図を定め、合図者を指名して連携することが原則である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0007

5-1 基本運転 > 運転前確認・操作装置 | 難易度：基礎 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「見えない部分は荷が通過してから確認する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：見えない範囲を把握し、必要に応じて合図者を配置して安全を確認し、安全を確認してから作業を進める
イ：始動直後から高回転・急操作で各装置を動かす。
ウ：周囲確認を省略し、合図者だけに安全確認を任せる。
エ：油漏れや異音を見つけても、作業終了まで運転を続ける。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。操作部分は必要な視野を確保できる位置に設けられることが求められ、実作業でも死角を補う合図・誘導が重要である。

イ：誤り。操作部分は必要な視野を確保できる位置に設けられることが求められ、実作業でも死角を補う合図・誘導が重要である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

ウ：誤り。操作部分は必要な視野を確保できる位置に設けられることが求められ、実作業でも死角を補う合図・誘導が重要である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

エ：誤り。異常の兆候を認めた状態で運転を続けず、停止して点検・整備する必要がある。

総合解説：操作部分は必要な視野を確保できる位置に設けられることが求められ、実作業でも死角を補う合図・誘導が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0008

5-1 基本運転 > 運転前確認・操作装置 | 難易度：基礎 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「荷が軽ければ沈下の進行を見ながらそのまま作業する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：警報装置の作動確認は本番作業中に行えばよい。
イ：荷をつる前に設置状態と地盤支持を再確認し、必要な補強・据え直しを行う
ウ：安全装置を一時的に無効化して作業性を優先する。
エ：作業計画や荷の質量を確認せず、定格荷重表は必要になってから見る。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。警報は能力限界への接近等を知らせる安全情報であり、無視して作業を続けてはならない。

イ：正しい。移動式クレーンの転倒防止には地盤状態とアウトリガーの適切な設置を事前に確認することが重要である。

ウ：誤り。安全装置を無効化してはならず、警報の原因となる作業条件を見直すべきである。

エ：誤り。定格能力は作業半径・ジブ条件・アウトリガー張出し幅等に応じて確認する必要がある。

総合解説：移動式クレーンの転倒防止には地盤状態とアウトリガーの適切な設置を事前に確認することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0009

5-1 基本運転 > 運転前確認・操作装置 | 難易度：基礎 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「最初から定格に近い荷をつり、負荷をかけた状態で機能確認する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：異常表示があっても、まず荷をつってから原因を考える。
- イ：油漏れや異音を見つけても、作業終了まで運転を続ける。
- ウ：空運転で巻上げ・起伏・旋回等の基本作動と停止を確認してから荷を扱う
- エ：警報装置の作動確認は本番作業中に行えばよい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実技教習の基本運転には空運転で基本操作を行うことが含まれ、作動と停止を確認してから荷役へ移るのが合理的である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
イ：誤り。異常の兆候を認めた状態で運転を続けず、停止して点検・整備する必要がある。
ウ：正しい。実技教習の基本運転には空運転で基本操作を行うことが含まれ、作動と停止を確認してから荷役へ移るのが合理的である。
エ：誤り。警報は能力限界への接近等を知らせる安全情報であり、無視して作業を続けてはならない。
総合解説：実技教習の基本運転には空運転で基本操作を行うことが含まれ、作動と停止を確認してから荷役へ移るのが合理的である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0010

5-1 基本運転 > 運転前確認・操作装置 | 難易度：基礎 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「速度を落とせば運転できると考え、荷役を継続する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：作業計画や荷の質量を確認せず、定格荷重表は必要になってから見る。
- イ：始動直後から高回転・急操作で各装置を動かす。
- ウ：警報装置の作動確認は本番作業中に行えばよい。
- エ：操作を中止して安全な状態にし、原因を確認・整備し、安全を確認してから作業を進める

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。定格能力は作業半径・ジブ条件・アウトリガー張出し幅等に応じて確認する必要がある。
イ：誤り。異音・振動・漏れ等は故障の兆候であり、安全側に停止して原因を確認することが必要である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
ウ：誤り。警報は能力限界への接近等を知らせる安全情報であり、無視して作業を続けてはならない。
エ：正しい。異音・振動・漏れ等は故障の兆候であり、安全側に停止して原因を確認することが必要である。
総合解説：異音・振動・漏れ等は故障の兆候であり、安全側に停止して原因を確認することが必要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0011

5-1 基本運転 > 巻上げ・巻下げ | 難易度：基礎 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「そのまま巻上げ、横方向の移動で荷を引き寄せる」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：一度止めてフックを荷の重心のほぼ真上に合わせてから巻上げる
- イ：フックが荷の重心から外れていても、そのまま斜めにつり上げる。
- ウ：つり荷を必要以上に高く上げたまま運搬する。
- エ：上限付近でもフックブロックを見ずに巻上げを継続する。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。フックはつり荷の重心の真上に位置決めし、斜めつりや横引きを避けることが基本である。
イ：誤り。フックを重心の上方に合わせ、斜めつり・横引きを避けるのが基本である。
ウ：誤り。必要以上の高吊りは荷振れや落下時の影響を大きくするため避ける。
エ：誤り。巻過防止装置だけに頼らず、フック位置を監視して上限へ近づけない操作が必要である。
総合解説：フックはつり荷の重心の真上に位置決めし、斜めつりや横引きを避けることが基本である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0012

5-1 基本運転 > 巻上げ・巻下げ | 難易度：標準 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「最大速度で巻上げ、衝撃で一気にとるみを取る」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：フックが荷の重心から外れていても、そのまま斜めにつり上げる。
- イ：低速でたるみを取り、ロープと玉掛け状態を確認しながら徐々に張力をかける
- ウ：上限付近でもフックブロックを見ずに巻上げを継続する。
- エ：ワイヤロープがたるんだ状態から急巻上げして一気に地切りする。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。フックを重心の上方に合わせ、斜めつり・横引きを避けるのが基本である。
イ：正しい。巻上げ開始時はロープを徐々に張り、衝撃荷重を生じさせない操作が重要である。
ウ：誤り。巻過防止装置だけに頼らず、フック位置を監視して上限へ近づけない操作が必要である。
エ：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。
総合解説：巻上げ開始時はロープを徐々に張り、衝撃荷重を生じさせない操作が重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0013

5-1 基本運転 > 巻上げ・巻下げ | 難易度：標準 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「ブームや旋回で横引きしながら同時に巻上げる」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：荷が不安定でも、運転操作だけで無理に姿勢を直す。

イ：つり荷を必要以上に高く上げたまま運搬する。

ウ：水平位置を修正して、ほぼ垂直につり上げられる状態にしてから地切りし、安全を確認してから作業を進める

エ：つり荷の下に人がいても、合図があれば巻上げを続ける。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。荷姿や玉掛け異常は空中で無理に補正せず、安全な低い位置へ戻して原因を是正する。

イ：誤り。必要以上の高吊りは荷振れや落下時の影響を大きくするため避ける。

ウ：正しい。衝撃・荷振れ運転や斜めつりをしないことはクレーン作業の基本的ポイントとされる。

エ：誤り。つり荷の下は落下・荷外れ時の危険が大きいため、人を立ち入らせない。

総合解説：衝撃・荷振れ運転や斜めつりをしないことはクレーン作業の基本的ポイントとされる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0014

5-1 基本運転 > 巻上げ・巻下げ | 難易度：応用 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「傾きが小さいのでそのまま高く巻上げてから確認する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：つり荷の下に人がいても、合図があれば巻上げを続ける。

イ：つり荷を必要以上に高く上げたまま運搬する。

ウ：フックが荷の重心から外れていても、そのまま斜めにつり上げる。

エ：低い位置で一旦停止し、玉掛けロープの張り、荷の安定、異常の有無を確認し、安全を確認してから作業を進める

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。つり荷の下は落下・荷外れ時の危険が大きいため、人を立ち入らせない。

イ：誤り。必要以上の高吊りは荷振れや落下時の影響を大きくするため避ける。

ウ：誤り。フックを重心の上方に合わせ、斜めつり・横引きを避けるのが基本である。

エ：正しい。地切り後は一旦停止し、玉掛用ワイヤロープの張りかつり荷の安定等を確認することが推奨される。

総合解説：地切り後は一旦停止し、玉掛用ワイヤロープの張りかつり荷の安定等を確認することが推奨される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0015

5-1 基本運転 > 巻上げ・巻下げ | 難易度：標準 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「安全のため常にジブ先端近くまで荷を巻上げて運搬する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：必要なクリアランスを確保できる範囲で、荷を過度に高く上げず運搬し、安全を確認してから作業を進める
イ：ワイヤロープがたるんだ状態から急巻上げて一気に地切りする。
ウ：巻下げ時は接地直前まで同じ高速で下ろす。
エ：フックが荷の重心から外れていても、そのまま斜めにつり上げる。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。荷は必要な離隔を確保しつつ、過度な高吊りを避けることで振れや落下時の影響を抑えられる。
イ：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。
ウ：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。
エ：誤り。フックを重心の上方に合わせ、斜めつり・横引きを避けるのが基本である。
総合解説：荷は必要な離隔を確保しつつ、過度な高吊りを避けることで振れや落下時の影響を抑えられる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0016

5-1 基本運転 > 巻上げ・巻下げ | 難易度：標準 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「短時間で済ませるため巻上げレバーを急に最大まで操作する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：上限付近でもフックブロックを見ずに巻上げを継続する。
イ：荷の状態を見ながら滑らかに加速・減速し、急操作を避ける
ウ：つり荷の下に人がいても、合図があれば巻上げを続ける。
エ：フックが荷の重心から外れていても、そのまま斜めにつり上げる。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。巻過防止装置だけに頼らず、フック位置を監視して上限へ近づけない操作が必要である。
イ：正しい。急な巻上げ・停止は慣性や衝撃を生み、荷振れや動荷重を増やすため滑らかな操作が必要である。
ウ：誤り。つり荷の下は落下・荷外れ時の危険が大きいため、人を立ち入らせない。
エ：誤り。フックを重心の上方に合わせ、斜めつり・横引きを避けるのが基本である。
総合解説：急な巻上げ・停止は慣性や衝撃を生み、荷振れや動荷重を増やすため滑らかな操作が必要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0017

5-1 基本運転 > 巻上げ・巻下げ | 難易度：基礎 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「荷が静止しているので、そのまま巻上げを続ける」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：フックが荷の重心から外れていても、そのまま斜めにつり上げる。

イ：つり荷の下に人がいても、合図があれば巻上げを続ける。

ウ：運転を停止し、危険区域から退避したことを確認してから再開し、安全を確認してから作業を進める

エ：巻下げ時は接地直前まで同じ高速で下ろす。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。フックを重心の上方に合わせ、斜めつり・横引きを避けるのが基本である。

イ：誤り。つり荷の下は落下・荷外れ時の危険が大きいため、人を立ち入らせない。

ウ：正しい。つり荷の下に作業者を立ち入らせないことは基本的な安全原則であり、運転者は危険を認めたら停止する。

エ：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。

総合解説：つり荷の下に作業者を立ち入らせないことは基本的な安全原則であり、運転者は危険を認めたら停止する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0018

5-1 基本運転 > 巻上げ・巻下げ | 難易度：基礎 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「巻過防止装置があるので、装置が作動するまで最大速度で巻き上げる」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：上限付近でもフックブロックを見ずに巻上げを継続する。

イ：フックが荷の重心から外れていても、そのまま斜めにつり上げる。

ウ：つり荷を必要以上に高く上げたまま運搬する。

エ：フック位置と巻過防止装置の状態を確認し、上限に近づけないよう慎重に操作し、安全を確認してから作業を進める

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。巻過防止装置だけに頼らず、フック位置を監視して上限へ近づけない操作が必要である。

イ：誤り。フックを重心の上方に合わせ、斜めつり・横引きを避けるのが基本である。

ウ：誤り。必要以上の高吊りは荷振れや落下時の影響を大きくするため避ける。

エ：正しい。安全装置は最終的な保護であり、通常運転では運転者自身がフック位置を監視し巻過ぎを避ける必要がある。

総合解説：安全装置は最終的な保護であり、通常運転では運転者自身がフック位置を監視し巻過ぎを避ける必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0019

5-1 基本運転 > 巻上げ・巻下げ | 難易度：標準 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「接地する瞬間まで高速で下げ、床面で停止させる」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：接地前に巻下げ速度を落とし、位置と安定を確認しながら静かに接地させる
イ：荷が不安定でも、運転操作だけで無理に姿勢を直す。
ウ：荷が傾いても地切りを続け、空中で玉掛け状態を直す。
エ：つり荷を必要以上に高く上げたまま運搬する。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。定位置への荷卸しでは、接地直前に速度を抑え、衝撃を与えず安定して置くことが重要である。
イ：誤り。荷姿や玉掛け異常は空中で無理に補正せず、安全な低い位置へ戻して原因を是正する。
ウ：誤り。荷姿や玉掛け異常は空中で無理に補正せず、安全な低い位置へ戻して原因を是正する。
エ：誤り。必要以上の高吊りは荷振れや落下時の影響を大きくするため避ける。
総合解説：定位置への荷卸しでは、接地直前に速度を抑え、衝撃を与えず安定して置くことが重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0020

5-1 基本運転 > 巻上げ・巻下げ | 難易度：標準 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「荷が接地した後も高速でローブを繰り出し、たるませてから玉掛けを外す」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：フックが荷の重心から外れていても、そのまま斜めにつり上げる。
イ：必要以上に巻下げず、ローブの張りどらム・シープへの掛かりを確認し、安全を確認してから作業を進める
ウ：つり荷を必要以上に高く上げたまま運搬する。
エ：荷が傾いても地切りを続け、空中で玉掛け状態を直す。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。フックを重心の上方に合わせ、斜めつり・横引きを避けるのが基本である。
イ：正しい。過度なたるみはローブがシープから外れたり乱巻きとなる原因になり得るため、巻下げ量を適切に管理する。
ウ：誤り。必要以上の高吊りは荷振れや落下時の影響を大きくするため避ける。
エ：誤り。荷姿や玉掛け異常は空中で無理に補正せず、安全な低い位置へ戻して原因を是正する。
総合解説：過度なたるみはローブがシープから外れたり乱巻きとなる原因になり得るため、巻下げ量を適切に管理する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0021

5-1 基本運転 > 巻上げ・巻下げ | 難易度：標準 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「数分だけならブレーキを掛けてつり荷を残したまま離れる」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：荷が不安定でも、運転操作だけで無理に姿勢を直す。
イ：上限付近でもフックブロックを見ずに巻上げを継続する。
ウ：荷を安全な位置に下ろしてから運転位置を離れる
エ：巻下げ時は接地直前まで同じ高速で下ろす。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。荷姿や玉掛け異常は空中で無理に補正せず、安全な低い位置へ戻して原因を是正する。
イ：誤り。巻過防止装置だけに頼らず、フック位置を監視して上限へ近づけない操作が必要である。
ウ：正しい。荷をつったまま運転位置を離れないことはクレーン作業の基本的な安全事項である。
エ：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。
総合解説：荷をつったまま運転位置を離れないことはクレーン作業の基本的な安全事項である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0022

5-1 基本運転 > 巻上げ・巻下げ | 難易度：応用 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「空中で荷を揺すり、運転操作だけで水平になるまで試す」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：荷が傾いても地切りを続け、空中で玉掛け状態を直す。
イ：つり荷を必要以上に高く上げたまま運搬する。
ウ：つり荷の下に人がいても、合図があれば巻上げを続ける。
エ：安全な低い位置へ荷を戻し、玉掛けと重心位置を是正してから再度つり上げる

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。荷姿や玉掛け異常は空中で無理に補正せず、安全な低い位置へ戻して原因を是正する。
イ：誤り。必要以上の高吊りは荷振れや落下時の影響を大きくするため避ける。
ウ：誤り。つり荷の下は落下・荷外れ時の危険が大きいため、人を立ち入らせない。
エ：正しい。地切り時の傾きや不均等な張りは玉掛け・重心の異常を示すため、低い位置で是正するのが安全である。
総合解説：地切り時の傾きや不均等な張りは玉掛け・重心の異常を示すため、低い位置で是正するのが安全である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0023

5-1 基本運転 > ジブ起伏・旋回 | 難易度：基礎 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「目標角度まで一気にレバーを最大操作してジブを起こす」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：荷の動きを見ながら滑らかに起伏し、急な半径方向移動を生じさせない
- イ：異常な旋回音がしても低速なら運転を続ける。
- ウ：ジブ起伏や旋回は目標位置に近づくほど急操作する。
- エ：死角側へ旋回するときも合図を求めず操作する。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。ジブ起伏は荷の位置と作業半径を変化させるため、急操作を避けて荷の動きを管理する必要がある。
イ：誤り。ジブ起伏は荷の位置と作業半径を変化させるため、急操作を避けて荷の動きを管理する必要がある。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
ウ：誤り。ジブ起伏は荷の位置と作業半径を変化させるため、急操作を避けて荷の動きを管理する必要がある。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
エ：誤り。死角では一定の合図と合図者による確認を用い、見えない状態で推測運転をしない。
総合解説：ジブ起伏は荷の位置と作業半径を変化させるため、急操作を避けて荷の動きを管理する必要がある。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0024

5-1 基本運転 > ジブ起伏・旋回 | 難易度：標準 | 形式：複合

実技練習中、運転者が「ジブを伏せると能力が必ず増えるので、荷重確認を省略する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：死角側へ旋回するときも合図を求めず操作する。
- イ：作業半径が大きくなることを見込み、定格荷重と周囲の余裕を再確認し、安全を確認してから作業を進める
- ウ：異常な旋回音がしても低速なら運転を続ける。
- エ：荷を横引きするために旋回操作を使う。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。死角では一定の合図と合図者による確認を用い、見えない状態で推測運転をしない。
イ：正しい。ジブを伏せると一般に作業半径が増し、安定性・定格荷重条件が厳しくなるため能力確認が必要である。
ウ：誤り。ジブを伏せると一般に作業半径が増し、安定性・定格荷重条件が厳しくなるため能力確認が必要である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
エ：誤り。フックを重心の上方に合わせ、斜めつり・横引きを避けるのが基本である。
総合解説：ジブを伏せると一般に作業半径が増し、安定性・定格荷重条件が厳しくなるため能力確認が必要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0025

5-1 基本運転 > ジブ起伏・旋回 | 難易度：標準 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「荷だけを見てジブ先端の位置は確認せず起伏する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：複数操作を常に最大速度で同時に行う。

イ：荷を横引きするために旋回操作を使う。

ウ：起伏前に上方の離隔を確認し、接触のおそれがあれば停止・経路変更し、安全を確認してから作業を進める

エ：旋回停止時は慣性を考えず急停止だけで位置を合わせる。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。

イ：誤り。フックを重心の上方に合わせ、斜めつり・横引きを避けるのが基本である。

ウ：正しい。ジブ・フロントアタッチメントの移動範囲では、荷だけでなく構造物との接触を避ける周囲確認が必要である。

エ：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。

総合解説：ジブ・フロントアタッチメントの移動範囲では、荷だけでなく構造物との接触を避ける周囲確認が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0026

5-1 基本運転 > ジブ起伏・旋回 | 難易度：標準 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「旋回レバーを急に最大まで入れて一気に動かす」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：ジブ長さや角度の変化による作業半径の変化を無視する。

イ：障害物との離隔を確認せずジブを起伏させる。

ウ：異常な旋回音がしても低速なら運転を続ける。

エ：低速から滑らかに旋回を開始し、荷の追従と振れを確認し、安全を確認してから作業を進める

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。定格能力は作業半径・ジブ条件・アウトリガー張出し幅等に応じて確認する必要がある。

イ：誤り。障害物へ接近する前に減速し、十分な離隔を確保できない場合は経路や作業条件を変更する。

ウ：誤り。旋回の急発進はつり荷に慣性を与え、荷振れを大きくするため滑らかな始動が必要である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

エ：正しい。旋回の急発進はつり荷に慣性を与え、荷振れを大きくするため滑らかな始動が必要である。

総合解説：旋回の急発進はつり荷に慣性を与え、荷振れを大きくするため滑らかな始動が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0027

5-1 基本運転 > ジブ起伏・旋回 | 難易度：標準 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「目標位置で急停止し、振れが出たら大きく逆旋回する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：目標前から徐々に減速し、停止後の荷の振れを見ながら位置を整える
- イ：ジブ起伏や旋回は目標位置に近づくほど急操作する。
- ウ：死角側へ旋回するときも合図を求めず操作する。
- エ：異常な旋回音がしても低速なら運転を続ける。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。旋回停止時にも荷には慣性が残るため、早めの減速と小さな補正で振れを抑えることが重要である。
イ：誤り。旋回停止時にも荷には慣性が残るため、早めの減速と小さな補正で振れを抑えることが重要である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
ウ：誤り。死角では一定の合図と合図者による確認を用い、見えない状態で推測運転をしない。
エ：誤り。旋回停止時にも荷には慣性が残るため、早めの減速と小さな補正で振れを抑えることが重要である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
総合解説：旋回停止時にも荷には慣性が残るため、早めの減速と小さな補正で振れを抑えることが重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0028

5-1 基本運転 > ジブ起伏・旋回 | 難易度：標準 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「つり荷が見えていれば後方の旋回範囲は確認しない」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：複数操作を常に最大速度で同時に行う。
- イ：荷だけでなく上部旋回体後方の旋回範囲も確認し、人を危険区域から退避させる
- ウ：ジブ長さや角度の変化による作業半径の変化を無視する。
- エ：荷を横引きするために旋回操作を使う。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。
イ：正しい。移動式クレーンではつり荷だけでなく、上部旋回体との接触危険箇所への立入りを防ぐ必要がある。
ウ：誤り。定格能力は作業半径・ジブ条件・アウトリガー張出し幅等に応じて確認する必要がある。
エ：誤り。フックを重心の上方に合わせ、斜めつり・横引きを避けるのが基本である。
総合解説：移動式クレーンではつり荷だけでなく、上部旋回体との接触危険箇所への立入りを防ぐ必要がある。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0029

5-1 基本運転 > ジブ起伏・旋回 | 難易度：応用 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「死角に入った後はおおよその時間を数えて旋回を続ける」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：障害物との離隔を確認せずジブを起伏させる。

イ：異常な旋回音がしても低速なら運転を続ける。

ウ：指名された合図者の見える位置・合図方法を確保し、確認できないときは停止し、安全を確認してから作業を進める

エ：複数操作を常に最大速度で同時に行う。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。障害物へ接近する前に減速し、十分な離隔を確保できない場合は経路や作業条件を変更する。

イ：誤り。死角では運転者単独の目視に頼らず、一定の合図に基づく誘導で安全を確保する必要がある。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

ウ：正しい。死角では運転者単独の目視に頼らず、一定の合図に基づく誘導で安全を確保する必要がある。

エ：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。

総合解説：死角では運転者単独の目視に頼らず、一定の合図に基づく誘導で安全を確保する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0030

5-1 基本運転 > ジブ起伏・旋回 | 難易度：基礎 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「荷を地面に接触させたまま旋回して横方向へ引く」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：異常な旋回音がしても低速なら運転を続ける。

イ：ジブ長さや角度の変化による作業半径の変化を無視する。

ウ：旋回停止時は慣性を考えず急停止だけで位置を合わせる。

エ：荷をいったん適切に位置決めし、斜めつり・横引きにならない方法でつり上げる

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。斜めつり・横引きは、ジブや玉掛けに想定外の横力を生じさせるため避ける。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

イ：誤り。定格能力は作業半径・ジブ条件・アウトリガー張出し幅等に応じて確認する必要がある。

ウ：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。

エ：正しい。斜めつり・横引きは、ジブや玉掛けに想定外の横力を生じさせるため避ける。

総合解説：斜めつり・横引きは、ジブや玉掛けに想定外の横力を生じさせるため避ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0031

5-1 基本運転 > ジブ起伏・旋回 | 難易度：標準 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「低速なら支障が少ないと考え、予定作業を終えるまで続ける」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：直ちに操作を中止し、荷を安全な状態にして点検・整備を行う
- イ：異常な旋回音がしても低速なら運転を続ける。
- ウ：障害物との離隔を確認せずジブを起伏させる。
- エ：複数操作を常に最大速度で同時に行う。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。異音や不自然な動作は機械・油圧系の異常兆候であり、運転継続より安全停止と点検を優先する。
イ：誤り。異音や不自然な動作は機械・油圧系の異常兆候であり、運転継続より安全停止と点検を優先する。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
ウ：誤り。障害物へ接近する前に減速し、十分な離隔を確保できない場合は経路や作業条件を変更する。
エ：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。
総合解説：異音や不自然な動作は機械・油圧系の異常兆候であり、運転継続より安全停止と点検を優先する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0032

5-1 基本運転 > ジブ起伏・旋回 | 難易度：標準 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「複数の操作を同時に大きく入れ、最短時間で着地させる」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：荷を横引きするために旋回操作を使う。
- イ：必要に応じて操作を分け、小さく滑らかな操作で荷の動きを確認しながら位置合わせし、安全を確認してから作業を進める
- ウ：旋回停止時は慣性を考えず急停止だけで位置を合わせる。
- エ：死角側へ旋回するときも合図を求めず操作する。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。フックを重心の上方に合わせ、斜めつり・横引きを避けるのが基本である。
イ：正しい。複合操作は荷の軌跡を複雑にやすく、精密作業では操作量を抑えて一つずつ結果を確認するのが安全である。
ウ：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。
エ：誤り。死角では一定の合図と合図者による確認を用い、見えない状態で推測運転をしない。
総合解説：複合操作は荷の軌跡を複雑にやすく、精密作業では操作量を抑えて一つずつ結果を確認するのが安全である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0033

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 発進・停止・加減速 | 難易度：基礎 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「最初から大きな操作量で急発進する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：荷の振れを見ずに一定の急加速を続ける。
- イ：方向転換のたびに急停止と急発進を繰り返す。
- ウ：小さな操作量から滑らかに発進し、荷の追従を確認して速度を上げる
- エ：停止後の荷の慣性を考えずフック位置だけを見る。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。
イ：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。
ウ：正しい。つり荷は慣性を持つため、急発進は吊点との相対変位を生じさせ荷振れの原因となる。
エ：誤り。つり荷は慣性を持つため、急発進は吊点との相対変位を生じさせ荷振れの原因となる。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
総合解説：つり荷は慣性を持つため、急発進は吊点との相対変位を生じさせ荷振れの原因となる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0034

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 発進・停止・加減速 | 難易度：標準 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「時間短縮のため一気に最大速度へ上げる」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：荷が重いほど急操作して短時間で移動させる。
- イ：停止位置の直前で初めて減速を始める。
- ウ：行き過ぎたら直ちに最大速度で逆方向へ操作する。
- エ：荷の振れと周囲を確認しながら、必要な範囲で段階的に加速し、安全を確認してから作業を進める

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。安定した運搬では速度そのものより、荷の動きに合わせた滑らかな加減速が重要である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
イ：誤り。安定した運搬では速度そのものより、荷の動きに合わせた滑らかな加減速が重要である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
ウ：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。
エ：正しい。安定した運搬では速度そのものより、荷の動きに合わせた滑らかな加減速が重要である。
総合解説：安定した運搬では速度そのものより、荷の動きに合わせた滑らかな加減速が重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0035

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 発進・停止・加減速 | 難易度：標準 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「停止位置の真上まで同じ速度で進み、その地点で急停止する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：停止位置より手前から減速し、荷の慣性を吸収しながら止める
- イ：障害物付近でも経路中央部と同じ速度で通過する。
- ウ：停止位置の直前で初めて減速を始める。
- エ：荷が重いほど急操作して短時間で移動させる。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。荷には慣性があるため、停止点の手前から減速して振れを抑える必要がある。

イ：誤り。障害物へ接近する前に減速し、十分な離隔を確保できない場合は経路や作業条件を変更する。

ウ：誤り。荷には慣性があるため、停止点の手前から減速して振れを抑える必要がある。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

エ：誤り。荷には慣性があるため、停止点の手前から減速して振れを抑える必要がある。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

総合解説：荷には慣性があるため、停止点の手前から減速して振れを抑える必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0036

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 発進・停止・加減速 | 難易度：標準 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「振れを打ち消すため毎回最大の逆操作を直ちに行う」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：荷が重いほど急操作して短時間で移動させる。
- イ：以後は急停止を避け、早めに減速して停止後の振れ幅を小さくし、安全を確認してから作業を進める
- ウ：停止位置の直前で初めて減速を始める。
- エ：方向転換のたびに急停止と急発進を繰り返す。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。急停止はつり荷の慣性を残し、振り子運動を生じさせる。停止操作は予見的に行う。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

イ：正しい。急停止はつり荷の慣性を残し、振り子運動を生じさせる。停止操作は予見的に行う。

ウ：誤り。急停止はつり荷の慣性を残し、振り子運動を生じさせる。停止操作は予見的に行う。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

エ：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。

総合解説：急停止はつり荷の慣性を残し、振り子運動を生じさせる。停止操作は予見的に行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0037

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 発進・停止・加減速 | 難易度：標準 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「速度を保ったまま急に方向を変える」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：障害物付近でも経路中央部と同じ速度で通過する。

イ：荷が重いほど急操作して短時間で移動させる。

ウ：曲がり角の手前で速度を落とし、荷が安定した状態で方向を変える

エ：方向転換のたびに急停止と急発進を繰り返す。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。障害物へ接近する前に減速し、十分な離隔を確保できない場合は経路や作業条件を変更する。

イ：誤り。方向転換は加速度の方向が変わるため、事前に減速して荷振れを抑えることが重要である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

ウ：正しい。方向転換は加速度の方向が変わるため、事前に減速して荷振れを抑えることが重要である。

エ：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。

総合解説：方向転換は加速度の方向が変わるため、事前に減速して荷振れを抑えることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0038

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 発進・停止・加減速 | 難易度：基礎 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「直ちに最大速度で逆方向へ操作し、振れたまま戻す」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：停止位置の直前で初めて減速を始める。

イ：方向転換のたびに急停止と急発進を繰り返す。

ウ：荷の振れを見ずに一定の急加速を続ける。

エ：いったん荷の動きを落ち着かせ、小さな操作で位置を修正し、安全を確認してから作業を進める

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。行き過ぎ時の大きな逆操作は逆方向の慣性を与え、振れを増幅しやすい。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

イ：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。

ウ：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。

エ：正しい。行き過ぎ時の大きな逆操作は逆方向の慣性を与え、振れを増幅しやすい。

総合解説：行き過ぎ時の大きな逆操作は逆方向の慣性を与え、振れを増幅しやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0039

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 発進・停止・加減速 | 難易度：標準 | 形式：複合

実技練習中、運転者が「荷が重いほど短時間で動かすため急加速する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：荷の慣性・回転しやすさを考え、より余裕を持った加減速と停止操作を行う
- イ：方向転換のたびに急停止と急発進を繰り返す。
- ウ：停止後の荷の慣性を考えずフック位置だけを見る。
- エ：荷が重いほど急操作して短時間で移動させる。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。荷の質量・寸法・荷姿は運動特性に影響するため、同一操作を機械的に適用せず余裕を持つ。
イ：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。
ウ：誤り。荷の質量・寸法・荷姿は運動特性に影響するため、同一操作を機械的に適用せず余裕を持つ。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
エ：誤り。荷の質量・寸法・荷姿は運動特性に影響するため、同一操作を機械的に適用せず余裕を持つ。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
総合解説：荷の質量・寸法・荷姿は運動特性に影響するため、同一操作を機械的に適用せず余裕を持つ。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0040

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 発進・停止・加減速 | 難易度：応用 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「障害物の近くほど速く通過して作業時間を短くする」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：発進時から最大操作量にして短時間で加速する。
- イ：障害物へ近づく前に速度を落とし、荷の位置を確認しながら通過し、安全を確認してから作業を進める
- ウ：行き過ぎたら直ちに最大速度で逆方向へ操作する。
- エ：障害物付近でも経路中央部と同じ速度で通過する。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。障害物近傍では位置修正余地が小さいため、低速で停止可能な余裕を確保する必要がある。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
イ：正しい。障害物近傍では位置修正余地が小さいため、低速で停止可能な余裕を確保する必要がある。
ウ：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。
エ：誤り。障害物へ接近する前に減速し、十分な離隔を確保できない場合は経路や作業条件を変更する。
総合解説：障害物近傍では位置修正余地が小さいため、低速で停止可能な余裕を確保する必要がある。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0041

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 発進・停止・加減速 | 難易度：標準 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「荷が安定していても頻繁に加速・停止を繰り返す」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：荷が重いほど急操作して短時間で移動させる。

イ：停止後の荷の慣性を考えずフック位置だけを見る。

ウ：無用な加減速を繰り返さず、適切な一定速度で運搬し、安全を確認してから作業を進める

エ：方向転換のために急停止と急発進を繰り返す。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。不必要な速度変動は新たな加速度を与え、荷振れの原因を増やす。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

イ：誤り。不必要な速度変動は新たな加速度を与え、荷振れの原因を増やす。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

ウ：正しい。不必要な速度変動は新たな加速度を与え、荷振れの原因を増やす。

エ：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。

総合解説：不必要な速度変動は新たな加速度を与え、荷振れの原因を増やす。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0042

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 発進・停止・加減速 | 難易度：標準 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「時間を失わないよう速度を上げて一気に経路を通過する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：停止位置の直前で初めて減速を始める。

イ：荷の振れを見ずに一定の急加速を続ける。

ウ：発進時から最大操作量にして短時間で加速する。

エ：進路の安全を確保しつつ減速・停止し、振れを落ち着かせてから再開し、安全を確認してから作業を進める

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。荷振れが制御範囲を超えたときは、さらに加速度を与えるより安全な状態で落ち着かせる判断が必要である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

イ：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。

ウ：誤り。荷振れが制御範囲を超えたときは、さらに加速度を与えるより安全な状態で落ち着かせる判断が必要である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

エ：正しい。荷振れが制御範囲を超えたときは、さらに加速度を与えるより安全な状態で落ち着かせる判断が必要である。

総合解説：荷振れが制御範囲を超えたときは、さらに加速度を与えるより安全な状態で落ち着かせる判断が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0043

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 荷振れの抑制 | 難易度：標準 | 形式：知識

実技練習中、運転者が「振れは操作と無関係なので、発進・停止方法は変えない」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：急な加減速を減らし、荷の動きに合わせて滑らかに操作し、安全を確認してから作業を進める
イ：荷の回転と振り子状の振れを区別せず同じ操作で抑える。
ウ：荷振れが大きくなったら、振れと無関係に大きな逆操作を繰り返す。
エ：振れが残ったまま障害物の近くへ進入する。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。つり荷は吊点の加速度に対して遅れて動くため、急な加減速は荷振れの主要因となる。
イ：誤り。つり荷は吊点の加速度に対して遅れて動くため、急な加減速は荷振れの主要因となる。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
ウ：誤り。つり荷は吊点の加速度に対して遅れて動くため、急な加減速は荷振れの主要因となる。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
エ：誤り。障害物へ接近する前に減速し、十分な離隔を確保できない場合は経路や作業条件を変更する。
総合解説：つり荷は吊点の加速度に対して遅れて動くため、急な加減速は荷振れの主要因となる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0044

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 荷振れの抑制 | 難易度：標準 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「振れ方向に関係なく大きな逆操作を繰り返す」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：荷振れを止めるため、つり荷を作業者に手で押さえさせる。
イ：荷の振れ方向とタイミングを見て、小さな操作で吊点を追従させる
ウ：風が強まり荷があおられても、経路優先で運搬を続ける。
エ：振れが増えても速度を上げれば安定すると考える。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。つり荷を人の身体で直接制止させると、挟まれ・巻き込まれの危険がある。
イ：正しい。荷振れ抑制では大きな逆操作より、振れを観察して小さく適切なタイミングで補正することが安全である。
ウ：誤り。風によって荷の制御が困難になる場合は、作業中止を含めて安全側に判断する。
エ：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。
総合解説：荷振れ抑制では大きな逆操作より、振れを観察して小さく適切なタイミングで補正することが安全である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0045

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 荷振れの抑制 | 難易度：基礎 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「振れがあるうちに勢いで狭所を通過する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：荷振れを止めるため、つり荷を作業者に手で押さえさせる。
イ：荷振れが大きくなったら、振れと無関係に大きな逆操作を繰り返す。
ウ：障害物手前で振れを小さくしてから低速で進入し、安全を確認してから作業を進める
エ：荷の回転と振り子状の振れを区別せず同じ操作で抑える。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。つり荷を人の身体で直接制止させると、挟まれ・巻き込まれの危険がある。
イ：誤り。狭所では荷振れ分の余裕が小さいため、進入前に振れを抑える必要がある。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
ウ：正しい。狭所では荷振れ分の余裕が小さいため、進入前に振れを抑える必要がある。
エ：誤り。狭所では荷振れ分の余裕が小さいため、進入前に振れを抑える必要がある。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
総合解説：狭所では荷振れ分の余裕が小さいため、進入前に振れを抑える必要がある。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0046

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 荷振れの抑制 | 難易度：標準 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「最大速度で反対方向へ旋回し続けて振れを打ち消す」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：振れが増えても速度を上げれば安定すると考える。
イ：荷振れを止めるため、つり荷を作業者に手で押さえさせる。
ウ：荷の回転と振り子状の振れを区別せず同じ操作で抑える。
エ：荷の周期と位置を見ながら小さく補正し、必要なら一旦停止して落ち着かせる

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。
イ：誤り。つり荷を人の身体で直接制止させると、挟まれ・巻き込まれの危険がある。
ウ：誤り。大きな逆旋回は新たな加速度を与え、荷振れを反対側へ増幅することがある。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
エ：正しい。大きな逆旋回は新たな加速度を与え、荷振れを反対側へ増幅することがある。
総合解説：大きな逆旋回は新たな加速度を与え、荷振れを反対側へ増幅することがある。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0047

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 荷振れの抑制 | 難易度：基礎 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「指定時間内に終えるため、速度を上げて作業を続ける」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：荷の制御が安全にできないと判断したら作業を中止し、安全な位置へ荷を下ろす

イ：荷振れが大きくなったら、振れと無関係に大きな逆操作を繰り返す。

ウ：合図者の停止合図より荷の到着時間を優先する。

エ：振れが増えても速度を上げれば安定すると思う。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。強風等により危険が予想されるときは作業を中止することが安全上の基本である。

イ：誤り。強風等により危険が予想されるときは作業を中止することが安全上の基本である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

ウ：誤り。強風等により危険が予想されるときは作業を中止することが安全上の基本である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

エ：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。

総合解説：強風等により危険が予想されるときは作業を中止することが安全上の基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0048

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 荷振れの抑制 | 難易度：応用 | 形式：複合

実技練習中、運転者が「質量が同じなら形状に関係なく同じ速度・同じ余裕で運搬する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：振れが増えても速度を上げれば安定すると思う。

イ：風の影響を受けやすいことを考え、風況と経路に余裕を持って操作し、安全を確認してから作業を進める

ウ：荷の回転と振り子状の振れを区別せず同じ操作で抑える。

エ：風が強まり荷があおられても、経路優先で運搬を続ける。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。

イ：正しい。荷の形状や受風面積は風による振れ・回転の程度に影響するため、質量だけで判断しない。

ウ：誤り。荷の形状や受風面積は風による振れ・回転の程度に影響するため、質量だけで判断しない。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

エ：誤り。風によって荷の制御が困難になる場合は、作業中止を含めて安全側に判断する。

総合解説：荷の形状や受風面積は風による振れ・回転の程度に影響するため、質量だけで判断しない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0049

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 荷振れの抑制 | 難易度：標準 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「両方を同じ現象とみなし、レバーを大きく一方向へ操作する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：荷振れが大きくなったら、振れと無関係に大きな逆操作を繰り返す。
- イ：停止位置では振れが最大の瞬間に荷を下ろす。
- ウ：荷の回転と吊点に対する振れを区別して観察し、それぞれに応じて安全な停止・誘導を行う
- エ：荷の回転と振り子状の振れを区別せず同じ操作で抑える。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。長尺物などでは回転と振り子状の振れが同時に起こり得るため、荷の運動を正しく観察することが重要である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

イ：誤り。長尺物などでは回転と振り子状の振れが同時に起こり得るため、荷の運動を正しく観察することが重要である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

ウ：正しい。長尺物などでは回転と振り子状の振れが同時に起こり得るため、荷の運動を正しく観察することが重要である。

エ：誤り。長尺物などでは回転と振り子状の振れが同時に起こり得るため、荷の運動を正しく観察することが重要である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

総合解説：長尺物などでは回転と振り子状の振れが同時に起こり得るため、荷の運動を正しく観察することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0050

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 荷振れの抑制 | 難易度：応用 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「作業者に荷の真横へ入って両手で止めてもらおう」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：荷振れが大きくなったら、振れと無関係に大きな逆操作を繰り返す。
- イ：停止位置では振れが最大の瞬間に荷を下ろす。
- ウ：風が強まり荷があおられても、経路優先で運搬を続ける。
- エ：作業者を危険範囲から退避させ、運転操作を安全側に調整して振れを収める

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。つり荷の動きを人の身体で直接止める方法は、挟まれ・巻き込まれ等の危険がある。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

イ：誤り。つり荷の動きを人の身体で直接止める方法は、挟まれ・巻き込まれ等の危険がある。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

ウ：誤り。風によって荷の制御が困難になる場合は、作業中止を含めて安全側に判断する。

エ：正しい。つり荷の動きを人の身体で直接止める方法は、挟まれ・巻き込まれ等の危険がある。

総合解説：つり荷の動きを人の身体で直接止める方法は、挟まれ・巻き込まれ等の危険がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0051

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 荷振れの抑制 | 難易度：基礎 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「振れが最大のタイミングで下ろし、床に当てて振れを止める」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：巻下げを急がず、振れが十分小さくなってから位置を合わせて静かに下ろす
イ：合図者の停止合図より荷の到着時間を優先する。
ウ：荷振れが大きくなったら、振れと無関係に大きな逆操作を繰り返す。
エ：振れが増えても速度を上げれば安定すると考える。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。定位置への荷卸しでは、荷の運動を落ち着かせてから低速で接地させることが重要である。
イ：誤り。定位置への荷卸しでは、荷の運動を落ち着かせてから低速で接地させることが重要である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
ウ：誤り。定位置への荷卸しでは、荷の運動を落ち着かせてから低速で接地させることが重要である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
エ：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。
総合解説：定位置への荷卸しでは、荷の運動を落ち着かせてから低速で接地させることが重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0052

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 荷振れの抑制 | 難易度：応用 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「三つの操作を同時に最大速度で行う」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：荷振れを止めるため、つり荷を作業者に手で押さえさせる。
イ：荷の軌跡を確認できる操作量に抑え、必要に応じて操作を分ける
ウ：風が強まり荷があおられても、経路優先で運搬を続ける。
エ：荷の回転と振り子状の振れを区別せず同じ操作で抑える。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。つり荷を人の身体で直接制止させると、挟まれ・巻き込まれの危険がある。
イ：正しい。複数軸の急操作を重ねると荷の運動が複雑になり、振れや位置予測が難しくなる。
ウ：誤り。風によって荷の制御が困難になる場合は、作業中止を含めて安全側に判断する。
エ：誤り。複数軸の急操作を重ねると荷の運動が複雑になり、振れや位置予測が難しくなる。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
総合解説：複数軸の急操作を重ねると荷の運動が複雑になり、振れや位置予測が難しくなる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0053

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 荷振れの抑制 | 難易度：標準 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「高いほど安全と考え、可能な限り高く巻き上げたまま運搬する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：合図者の停止合図より荷の到着時間を優先する。
イ：風が強まり荷があおられても、経路優先で運搬を続ける。
ウ：必要な安全高さを確保しつつ、過度に高い位置での運搬を避ける
エ：荷振れを止めるため、つり荷を作業者に手で押さえさせる。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。必要以上の高吊りは荷の位置エネルギーを増やし、振れや落下時の影響を大きくするため避ける。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
イ：誤り。風によって荷の制御が困難になる場合は、作業中止を含めて安全側に判断する。
ウ：正しい。必要以上の高吊りは荷の位置エネルギーを増やし、振れや落下時の影響を大きくするため避ける。
エ：誤り。つり荷を人の身体で直接制止させると、挟まれ・巻き込まれの危険がある。
総合解説：必要以上の高吊りは荷の位置エネルギーを増やし、振れや落下時の影響を大きくするため避ける。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0054

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 荷振れの抑制 | 難易度：基礎 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「経路から外れないよう操作量をさらに大きくして運搬を続ける」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：荷振れを止めるため、つり荷を作業者に手で押さえさせる。
イ：荷振れが大きくなったら、振れと無関係に大きな逆操作を繰り返す。
ウ：振れが残ったまま障害物の近くへ進入する。
エ：安全な場所で動作を止め、必要なら荷を下ろして原因を取り除いてから再開し、安全を確認してから作業を進める

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。つり荷を人の身体で直接制止させると、挟まれ・巻き込まれの危険がある。
イ：誤り。制御可能な範囲を超えた荷振れでは、運搬継続より安全停止・荷卸しを優先する。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
ウ：誤り。障害物へ接近する前に減速し、十分な離隔を確保できない場合は経路や作業条件を変更する。
エ：正しい。制御可能な範囲を超えた荷振れでは、運搬継続より安全停止・荷卸しを優先する。
総合解説：制御可能な範囲を超えた荷振れでは、運搬継続より安全停止・荷卸しを優先する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0055

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 指定経路の運搬・定位置への荷卸し | 難易度：標準 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「運搬しながら経路を探し、障害物が見えたらその場で判断する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：経路、障害物、立入区域、荷卸し位置を確認してから運搬し、安全を確認してから作業を進める
- イ：定位置の横から斜めにつり荷を引き込んで荷卸しする。
- ウ：指定経路を短縮するため障害物の上を近道する。
- エ：接地前の水平位置合わせを省略し、荷を床で滑らせて修正する。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実技試験の方法には定められた経路による運搬が含まれ、事前の経路確認が安全な操作の前提になる。
イ：誤り。フックを重心の上方に合わせ、斜めつり・横引きを避けるのが基本である。
ウ：誤り。障害物へ接近する前に減速し、十分な離隔を確保できない場合は経路や作業条件を変更する。
エ：誤り。接地した荷をクレーンで横引きせず、必要なら再つり上げて垂直荷重の範囲で位置を修正する。
総合解説：実技試験の方法には定められた経路による運搬が含まれ、事前の経路確認が安全な操作の前提になる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0056

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 指定経路の運搬・定位置への荷卸し | 難易度：応用 | 形式：複合

実技練習中、運転者が「荷の下面が障害物に触れる程度の高さで通過する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：荷卸し場所の安定性を確認せずワイヤロープを緩める。
- イ：障害物との安全な離隔を確保できる高さまで上げ、過度な高吊りは避ける
- ウ：荷の通過高さを確認せず、必要以上に低い位置で運搬する。
- エ：指定経路を短縮するため障害物の上を近道する。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。指定経路運搬では障害物との離隔を確保しつつ、必要以上に荷を高くしない操作が望ましい。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
イ：正しい。指定経路運搬では障害物との離隔を確保しつつ、必要以上に荷を高くしない操作が望ましい。
ウ：誤り。指定経路運搬では障害物との離隔を確保しつつ、必要以上に荷を高くしない操作が望ましい。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
エ：誤り。障害物へ接近する前に減速し、十分な離隔を確保できない場合は経路や作業条件を変更する。
総合解説：指定経路運搬では障害物との離隔を確保しつつ、必要以上に荷を高くしない操作が望ましい。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0057

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 指定経路の運搬・定位置への荷卸し | 難易度：基礎 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「時間短縮のため指定外の近道へ荷を移す」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：死角に入ってもそのまま運転者だけの判断で進める。

イ：定位置の横から斜めにつり荷を引き込んで荷卸しする。

ウ：定められた経路を守り、安全確認を行いながら運搬し、安全を確認してから作業を進める

エ：指定経路を短縮するため障害物の上を近道する。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。死角では一定の合図と合図者による確認を用い、見えない状態で推測運転をしない。

イ：誤り。フックを重心の上方に合わせ、斜めつり・横引きを避けるのが基本である。

ウ：正しい。実技試験・教習では「定められた経路による運搬」が明示された課題であり、経路を守ること自体が重要である。

エ：誤り。障害物へ接近する前に減速し、十分な離隔を確保できない場合は経路や作業条件を変更する。

総合解説：実技試験・教習では「定められた経路による運搬」が明示された課題であり、経路を守ること自体が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0058

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 指定経路の運搬・定位置への荷卸し | 難易度：応用 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「見えない区間の距離を推測し、合図なしで一定時間操作する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：死角に入ってもそのまま運転者だけの判断で進める。

イ：定位置の横から斜めにつり荷を引き込んで荷卸しする。

ウ：障害物付近で速度を上げ、早く通過して危険時間を短くする。

エ：合図者が安全を確認できる位置から一定の合図で誘導し、合図を確認できないときは停止し、安全を確認してから作業を進める

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。死角では一定の合図と合図者による確認を用い、見えない状態で推測運転をしない。

イ：誤り。フックを重心の上方に合わせ、斜めつり・横引きを避けるのが基本である。

ウ：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。

エ：正しい。死角では一定の合図による連携を使い、確認できない状態での推測運転を避ける。

総合解説：死角では一定の合図による連携を使い、確認できない状態での推測運転を避ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0059

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 指定経路の運搬・定位置への荷卸し | 難易度：標準 | 形式：複合

実技練習中、運転者が「フックだけが経路内なら荷の端部は障害物に近づいてもよい」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：曲がり角前に減速し、荷の長さと振れ幅を考慮して十分な離隔を確保し、安全を確認してから作業を進める
- イ：接地前の水平位置合わせを省略し、荷を床で滑らせて修正する。
- ウ：荷卸し場所の安定性を確認せずワイヤロープを緩める。
- エ：人が経路内に入っても作業を止めず警報だけで通過する。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。つり荷の軌跡はフック位置だけで決まらず、荷の寸法・振れによって外側へ張り出す。
イ：誤り。接地した荷をクレーンで横引きせず、必要なら再つり上げて垂直荷重の範囲で位置を修正する。
ウ：誤り。つり荷の軌跡はフック位置だけで決まらず、荷の寸法・振れによって外側へ張り出す。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
エ：誤り。警報は能力限界への接近等を知らせる安全情報であり、無視して作業を続けてはならない。
総合解説：つり荷の軌跡はフック位置だけで決まらず、荷の寸法・振れによって外側へ張り出す。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0060

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 指定経路の運搬・定位置への荷卸し | 難易度：基礎 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「巻下げながら斜めに引き込んで定位置へ合わせる」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：障害物付近で速度を上げ、早く通過して危険時間を短くする。
- イ：まず荷を定位置のほぼ真上へ水平移動し、振れを抑えてから巻下げる
- ウ：定位置の横から斜めにつり荷を引き込んで荷卸しする。
- エ：荷卸し場所の安定性を確認せずワイヤロープを緩める。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。
イ：正しい。荷卸しでは先に水平位置を合わせ、斜めつり・横引きにならないよう垂直に下ろすのが基本である。
ウ：誤り。フックを重心の上方に合わせ、斜めつり・横引きを避けるのが基本である。
エ：誤り。荷卸しでは先に水平位置を合わせ、斜めつり・横引きにならないよう垂直に下ろすのが基本である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
総合解説：荷卸しでは先に水平位置を合わせ、斜めつり・横引きにならないよう垂直に下ろすのが基本である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0061

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 指定経路の運搬・定位置への荷卸し | 難易度：標準 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「最後だけ速度を上げ、床に当てて位置を固定する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：定位置の横から斜めにつり荷を引き込んで荷卸しする。
- イ：接地前の水平位置合わせを省略し、荷を床で滑らせて修正する。
- ウ：低速で位置を微調整し、衝撃を与えず静かに接地させる
- エ：死角に入ってもそのまま運転者だけの判断で進める。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。フックを重心の上方に合わせ、斜めつり・横引きを避けるのが基本である。
イ：誤り。接地した荷をクレーンで横引きせず、必要なら再つり上げて垂直荷重の範囲で位置を修正する。
ウ：正しい。定位置への荷卸しは接地前に速度を落とし、安定した姿勢で静置することが重要である。
エ：誤り。死角では一定の合図と合図者による確認を用い、見えない状態で推測運転をしない。
総合解説：定位置への荷卸しは接地前に速度を落とし、安定した姿勢で静置することが重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0062

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 指定経路の運搬・定位置への荷卸し | 難易度：標準 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「接地を確認した瞬間にロープを大きく緩める」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：荷卸し場所の安定性を確認せずワイヤロープを緩める。
- イ：接地前の水平位置合わせを省略し、荷を床で滑らせて修正する。
- ウ：障害物付近で速度を上げ、早く通過して危険時間を短くする。
- エ：荷が安定して支持されていることを確認してから張力を抜く

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。荷卸し後は荷が自立・安定して支持されていることを確認してから玉掛け張力を解放する。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
イ：誤り。接地した荷をクレーンで横引きせず、必要なら再つり上げて垂直荷重の範囲で位置を修正する。
ウ：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。
エ：正しい。荷卸し後は荷が自立・安定して支持されていることを確認してから玉掛け張力を解放する。
総合解説：荷卸し後は荷が自立・安定して支持されていることを確認してから玉掛け張力を解放する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0063

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 指定経路の運搬・定位置への荷卸し | 難易度：基礎 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「警報を鳴らしながら、そのまま作業者の近くを通過する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：ただちに安全側へ停止し、作業者が退避して経路の安全が確認できてから再開し、安全を確認してから作業を進める

イ：定位置の横から斜めにつり荷を引き込んで荷卸しする。

ウ：指定経路を短縮するため障害物の上を近道する。

エ：人が経路内に入っても作業を止めず警報だけで通過する。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。つり荷の移動範囲から人を排除し、危険を認めたら運転を停止することが基本である。

イ：誤り。フックを重心の上方に合わせ、斜めつり・横引きを避けるのが基本である。

ウ：誤り。障害物へ接近する前に減速し、十分な離隔を確保できない場合は経路や作業条件を変更する。

エ：誤り。警報は能力限界への接近等を知らせる安全情報であり、無視して作業を続けてはならない。

総合解説：つり荷の移動範囲から人を排除し、危険を認めたら運転を停止することが基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0064

5-2 指定経路・荷振れ制御 > 指定経路の運搬・定位置への荷卸し | 難易度：基礎 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「荷を地面に置いたまま旋回や巻上げで横に引きずる」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：定位置の横から斜めにつり荷を引き込んで荷卸しする。

イ：いったん再び適切につり上げ、垂直荷重の範囲で位置を修正して静置し、安全を確認してから作業を進める

ウ：障害物付近で速度を上げ、早く通過して危険時間を短くする。

エ：人が経路内に入っても作業を止めず警報だけで通過する。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。フックを重心の上方に合わせ、斜めつり・横引きを避けるのが基本である。

イ：正しい。地面上の荷を横引きすると想定外の横力が加わるため、必要なら安全に再びり上げて位置を直す。

ウ：誤り。急な加減速・停止は慣性や衝撃を増やし、荷振れや動荷重を大きくする。

エ：誤り。警報は能力限界への接近等を知らせる安全情報であり、無視して作業を続けてはならない。

総合解説：地面上の荷を横引きすると想定外の横力が加わるため、必要なら安全に再びり上げて位置を直す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0065

5-3 応用運転 > 荷姿・重心・つり方への対応 | 難易度：応用 | 形式：複合

実技練習中、運転者が「外形の中央が必ず重心だと仮定してつり上げる」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：荷の中身が移動しやすくても重心変化を考慮しない。

イ：荷の重心位置を確認せず、見た目の中心にフックを合わせる。

ウ：外形中心だけでなく質量分布から重心を確認し、その上方にフックを位置させる

エ：荷の一部が固定されていてそのまま巻上げる。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。荷の安定には重心と吊点の位置関係が重要であり、偏った荷では外形中心と重心が一致しないことがある。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

イ：誤り。荷の安定には重心と吊点の位置関係が重要であり、偏った荷では外形中心と重心が一致しないことがある。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

ウ：正しい。荷の安定には重心と吊点の位置関係が重要であり、偏った荷では外形中心と重心が一致しないことがある。

エ：誤り。荷の一部が固定・引っ掛かっている状態で巻上げると、過大な荷重や急な荷移動を生じる。

総合解説：荷の安定には重心と吊点の位置関係が重要であり、偏った荷では外形中心と重心が一致しないことがある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0066

5-3 応用運転 > 荷姿・重心・つり方への対応 | 難易度：標準 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「傾いたまま高く巻き上げ、空中で荷を回して直す」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：荷が傾いたまま地切りを続け、空中で姿勢を直す。

イ：玉掛け状態の異常を運転操作だけで補正する。

ウ：荷の中身が移動しやすくても重心変化を考慮しない。

エ：直ちに低い位置へ戻し、重心・玉掛け位置・ロープの張りを再確認し、安全を確認してから作業を進める

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。荷姿や玉掛け異常は空中で無理に補正せず、安全な低い位置へ戻して原因を是正する。

イ：誤り。荷姿や玉掛け異常は空中で無理に補正せず、安全な低い位置へ戻して原因を是正する。

ウ：誤り。地切りは荷の安定を確認する機会であり、大きな傾きは重心・玉掛け状態を是正する信号である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

エ：正しい。地切りは荷の安定を確認する機会であり、大きな傾きは重心・玉掛け状態を是正する信号である。

総合解説：地切りは荷の安定を確認する機会であり、大きな傾きは重心・玉掛け状態を是正する信号である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0067

5-3 応用運転 > 荷姿・重心・つり方への対応 | 難易度：標準 | 形式：複合

実技練習中、運転者が「フック位置だけが障害物を避ければ荷端部は考慮しない」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：荷の端部が大きな軌跡を描くことを考え、回転と周囲離隔を確認して低速で操作し、安全を確認してから作業を進める

イ：荷の一部が固定されていてもそのまま巻上げる。

ウ：長尺物が回転しても作業者に手で止めさせる。

エ：荷姿や荷の寸法に関係なく同じつり方を使用する。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。長尺物では荷端部の軌跡と回転が大きくなりやすく、フックだけでなく荷全体の占有範囲を管理する。

イ：誤り。荷の一部が固定・引っ掛かっている状態で巻上げると、過大な荷重や急な荷移動を生じる。

ウ：誤り。つり荷を人の身体で直接制止させると、挟まれ・巻き込まれの危険がある。

エ：誤り。長尺物では荷端部の軌跡と回転が大きくなりやすく、フックだけでなく荷全体の占有範囲を管理する。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

総合解説：長尺物では荷端部の軌跡と回転が大きくなりやすく、フックだけでなく荷全体の占有範囲を管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0068

5-3 応用運転 > 荷姿・重心・つり方への対応 | 難易度：標準 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「旋回と起伏を組み合わせせて空中でロープの張りを均等にする」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：荷の重心位置を確認せず、見た目の中心にフックを合わせる。

イ：荷を下ろして玉掛けをやり直し、均等に荷重を負担する状態を確認し、安全を確認してから作業を進める

ウ：不安定な荷を高く上げてから安定性を確認する。

エ：荷姿や荷の寸法に関係なく同じつり方を使用する。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。玉掛けの不均衡は運転操作で無理に補正せず、荷を安全に下ろして玉掛け状態そのものを是正する。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

イ：正しい。玉掛けの不均衡は運転操作で無理に補正せず、荷を安全に下ろして玉掛け状態そのものを是正する。

ウ：誤り。玉掛けの不均衡は運転操作で無理に補正せず、荷を安全に下ろして玉掛け状態そのものを是正する。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

エ：誤り。玉掛けの不均衡は運転操作で無理に補正せず、荷を安全に下ろして玉掛け状態そのものを是正する。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

総合解説：玉掛けの不均衡は運転操作で無理に補正せず、荷を安全に下ろして玉掛け状態そのものを是正する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0069

5-3 応用運転 > 荷姿・重心・つり方への対応 | 難易度：応用 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「クレーンの力で固定具ごと引き外す」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：玉掛け状態の異常を運転操作だけで補正する。

イ：荷の一部が固定されていてもそのまま巻上げる。

ウ：巻上げを中止し、荷が完全に自由な状態であることを確認してから作業し、安全を確認してから作業を進める

エ：長尺物が回転しても作業者に手で止めさせる。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。荷姿や玉掛け異常は空中で無理に補正せず、安全な低い位置へ戻して原因を是正する。

イ：誤り。荷の一部が固定・引っ掛かっている状態で巻上げると、過大な荷重や急な荷移動を生じる。

ウ：正しい。固定・引っ掛かりがある荷を巻き上げると想定以上の荷重や横力が発生するため、完全に解放してからつる。

エ：誤り。つり荷を人の身体で直接制止させると、挟まれ・巻き込まれの危険がある。

総合解説：固定・引っ掛かりがある荷を巻き上げると想定以上の荷重や横力が発生するため、完全に解放してからつる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0070

5-3 応用運転 > 荷姿・重心・つり方への対応 | 難易度：標準 | 形式：知識

実技練習中、運転者が「どの荷でも同じつり方を使えば実技操作は同じなので問題ない」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：玉掛け状態の異常を運転操作だけで補正する。

イ：荷の重心位置を確認せず、見た目の中心にフックを合わせる。

ウ：荷が傾いたまま地切りを続け、空中で姿勢を直す。

エ：荷の形状、寸法、質量、重心に応じて適切な玉掛け方法を選ぶ

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。荷姿や玉掛け異常は空中で無理に補正せず、安全な低い位置へ戻して原因を是正する。

イ：誤り。厚生労働省の安全ポイントでも、荷の形状・寸法・質量等に応じた適切な玉掛け方法を行うことが示されている。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

ウ：誤り。荷姿や玉掛け異常は空中で無理に補正せず、安全な低い位置へ戻して原因を是正する。

エ：正しい。厚生労働省の安全ポイントでも、荷の形状・寸法・質量等に応じた適切な玉掛け方法を行うことが示されている。

総合解説：厚生労働省の安全ポイントでも、荷の形状・寸法・質量等に応じた適切な玉掛け方法を行うことが示されている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0071

5-3 応用運転 > 荷姿・重心・つり方への対応 | 難易度：基礎 | 形式：複合

実技練習中、運転者が「静止時の重心だけを見て、運搬中の変化は無視する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：急操作を避け、荷の姿勢変化を監視し、必要なら運搬方法自体を見直す
イ：荷の中身が移動しやすくても重心変化を考慮しない。
ウ：荷姿や荷の寸法に関係なく同じつり方を使用する。
エ：玉掛け状態の異常を運転操作だけで補正する。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。内容物の移動などで重心が変化する荷は、静止時より運動中の姿勢変化を考慮する必要がある。
イ：誤り。内容物の移動などで重心が変化する荷は、静止時より運動中の姿勢変化を考慮する必要がある。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
ウ：誤り。内容物の移動などで重心が変化する荷は、静止時より運動中の姿勢変化を考慮する必要がある。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
エ：誤り。荷姿や玉掛け異常は空中で無理に補正せず、安全な低い位置へ戻して原因を是正する。
総合解説：内容物の移動などで重心が変化する荷は、静止時より運動中の姿勢変化を考慮する必要がある。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0072

5-3 応用運転 > 荷姿・重心・つり方への対応 | 難易度：標準 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「高重心の荷ほど高くつり上げ、振れを大きくして安定性を確認する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：不安定な荷を高く上げてから安定性を確認する。
イ：急操作を避け、必要な安全高さの範囲で低い位置を保ち、傾きに注意して運搬し、安全を確認してから作業を進める
ウ：荷姿や荷の寸法に関係なく同じつり方を使用する。
エ：長尺物が回転しても作業者に手で止めさせる。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。高重心の荷は姿勢変化や接地時の転倒に注意し、急な加減速・高吊りを避ける。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
イ：正しい。高重心の荷は姿勢変化や接地時の転倒に注意し、急な加減速・高吊りを避ける。
ウ：誤り。高重心の荷は姿勢変化や接地時の転倒に注意し、急な加減速・高吊りを避ける。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
エ：誤り。つり荷を人の身体で直接制止させると、挟まれ・巻き込まれの危険がある。
総合解説：高重心の荷は姿勢変化や接地時の転倒に注意し、急な加減速・高吊りを避ける。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0073

5-3 応用運転 > 荷姿・重心・つり方への対応 | 難易度：基礎 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「作業者をつり荷の横に立たせ、手で水平に保ったまま運搬する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：不安定な荷を高く上げてから安定性を確認する。
- イ：長尺物が回転しても作業者に手で止めさせる。
- ウ：荷を安全な位置へ下ろし、玉掛け・重心を修正してから再度つる
- エ：玉掛け状態の異常を運転操作だけで補正する。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。つり荷の姿勢異常は人の身体で支えるのではなく、荷を下ろして原因を是正する。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

イ：誤り。つり荷を人の身体で直接制止させると、挟まれ・巻き込まれの危険がある。

ウ：正しい。つり荷の姿勢異常は人の身体で支えるのではなく、荷を下ろして原因を是正する。

エ：誤り。荷姿や玉掛け異常は空中で無理に補正せず、安全な低い位置へ戻して原因を是正する。

総合解説：つり荷の姿勢異常は人の身体で支えるのではなく、荷を下ろして原因を是正する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0074

5-3 応用運転 > 荷姿・重心・つり方への対応 | 難易度：基礎 | 形式：複合

実技練習中、運転者が「質量が定格内なら風の強さは運転判断に関係しない」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：荷の重心位置を確認せず、見た目の中心にフックを合わせる。
- イ：荷姿や荷の寸法に関係なく同じつり方を使用する。
- ウ：玉掛け状態の異常を運転操作だけで補正する。
- エ：受風面積と風況を評価し、制御が困難になる前に作業中止を含めて判断し、安全を確認してから作業を進める

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。大型・板状荷は風圧を受けて振れ・回転しやすいため、定格荷重だけでなく風況も重要である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

イ：誤り。大型・板状荷は風圧を受けて振れ・回転しやすいため、定格荷重だけでなく風況も重要である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

ウ：誤り。荷姿や玉掛け異常は空中で無理に補正せず、安全な低い位置へ戻して原因を是正する。

エ：正しい。大型・板状荷は風圧を受けて振れ・回転しやすいため、定格荷重だけでなく風況も重要である。

総合解説：大型・板状荷は風圧を受けて振れ・回転しやすいため、定格荷重だけでなく風況も重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0075

5-3 応用運転 > 作業半径・定格荷重の管理 | 難易度：標準 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「機械の最大つり上げ荷重だけを見て作業可能と判断する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：現在の作業半径とジブ条件に対応する定格総荷重表を確認してから地切りし、安全を確認してから作業を進める
イ：過負荷防止装置があるので事前の能力確認は不要とする。
ウ：アウトリガー張出し幅が変わっても最大張出し時の能力表を使う。
エ：定格荷重表は最大能力だけ見て、現在の作業半径を確認しない。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。移動式クレーンの能力は作業半径やジブ条件で変化するため、最大能力の表示だけでは判断できない。
イ：誤り。警報は能力限界への接近等を知らせる安全情報であり、無視して作業を続けてはならない。
ウ：誤り。定格能力は作業半径・ジブ条件・アウトリガー張出し幅等に応じて確認する必要がある。
エ：誤り。定格能力は作業半径・ジブ条件・アウトリガー張出し幅等に応じて確認する必要がある。
総合解説：移動式クレーンの能力は作業半径やジブ条件で変化するため、最大能力の表示だけでは判断できない。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0076

5-3 応用運転 > 作業半径・定格荷重の管理 | 難易度：標準 | 形式：複合

実技練習中、運転者が「元の近い半径でつれたので、遠くへ移しても能力は同じと考える」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：定格荷重表は最大能力だけ見て、現在の作業半径を確認しない。
イ：作業半径が増える前に、その半径での定格能力を再確認し、安全を確認してから作業を進める
ウ：ジブを伸ばした後も能力を再確認せず同じ荷をつる。
エ：過負荷防止装置があるので事前の能力確認は不要とする。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。定格能力は作業半径・ジブ条件・アウトリガー張出し幅等に応じて確認する必要がある。
イ：正しい。作業半径が増えると転倒モーメントが増し、一般に許容できる荷重は小さくなる。
ウ：誤り。作業半径が増えると転倒モーメントが増し、一般に許容できる荷重は小さくなる。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
エ：誤り。警報は能力限界への接近等を知らせる安全情報であり、無視して作業を続けてはならない。
総合解説：作業半径が増えると転倒モーメントが増し、一般に許容できる荷重は小さくなる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0077

5-3 応用運転 > 作業半径・定格荷重の管理 | 難易度：標準 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「ジブを伸ばしても最初に確認した能力をそのまま用いる」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：作業半径が大きくなっても、元の定格荷重をそのまま使う。

イ：荷の質量が不明でも目測を小さめに見積もって作業する。

ウ：ジブ長さ・作業半径が変わった条件で定格総荷重表を再確認し、安全を確認してから作業を進める

エ：アウトリガー張出し幅が変わっても最大張出し時の能力表を使う。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。定格能力は作業半径・ジブ条件・アウトリガー張出し幅等に応じて確認する必要がある。

イ：誤り。定格能力はジブ長さ等の作業条件によって変化するため、条件変更ごとに再確認が必要である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

ウ：正しい。定格能力はジブ長さ等の作業条件によって変化するため、条件変更ごとに再確認が必要である。

エ：誤り。定格能力は作業半径・ジブ条件・アウトリガー張出し幅等に応じて確認する必要がある。

総合解説：定格能力はジブ長さ等の作業条件によって変化するため、条件変更ごとに再確認が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0078

5-3 応用運転 > 作業半径・定格荷重の管理 | 難易度：標準 | 形式：複合

実技練習中、運転者が「最大張出し時の能力表をそのまま中間張出しへ適用する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：定格荷重表は最大能力だけ見て、現在の作業半径を確認しない。

イ：定格荷重以下なら地盤条件や動荷重は一切考えない。

ウ：過負荷防止装置があるので事前の能力確認は不要とする。

エ：実際の張出し幅に対応する定格能力を用い、荷重がその範囲内であることを確認し、安全を確認してから作業を進める

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。定格能力は作業半径・ジブ条件・アウトリガー張出し幅等に応じて確認する必要がある。

イ：誤り。地盤支持力とアウトリガーの据付条件を確認し、沈下や転倒を防ぐ必要がある。

ウ：誤り。警報は能力限界への接近等を知らせる安全情報であり、無視して作業を続けてはならない。

エ：正しい。アウトリガーを最大限に張り出せない場合は、実際の張出し幅に応じた定格荷重を下回ることを確実にする必要がある。

総合解説：アウトリガーを最大限に張り出せない場合は、実際の張出し幅に応じた定格荷重を下回ることを確実にする必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0079

5-3 応用運転 > 作業半径・定格荷重の管理 | 難易度：応用 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「警報が鳴るまで能力確認をせず荷を増やす」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：装置は有効に使用しつつ、作業前に定格能力を確認して過負荷にならない計画を立てる
イ：作業半径が大きくなっても、元の定格荷重をそのまま使う。
ウ：ジブを伸ばした後も能力を再確認せず同じ荷をつる。
エ：過負荷防止装置があるので事前の能力確認は不要とする。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。過負荷防止装置は安全補助装置であり、事前に定格荷重内で作業する計画そのものを不要にするものではない。
イ：誤り。定格能力は作業半径・ジブ条件・アウトリガー張出し幅等に応じて確認する必要がある。
ウ：誤り。過負荷防止装置は安全補助装置であり、事前に定格荷重内で作業する計画そのものを不要にするものではない。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
エ：誤り。警報は能力限界への接近等を知らせる安全情報であり、無視して作業を続けてはならない。
総合解説：過負荷防止装置は安全補助装置であり、事前に定格荷重内で作業する計画そのものを不要にするものではない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0080

5-3 応用運転 > 作業半径・定格荷重の管理 | 難易度：応用 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「目測を小さめに見積もり、つれば問題ないと判断する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：荷の質量だけ見て、ジブ長さや作業半径の条件を確認しない。
イ：資料・表示・計算等で質量を確認し、不確かな場合は安全側に評価して能力と比較し、安全を確認してから作業を進める
ウ：過負荷防止装置があるので事前の能力確認は不要とする。
エ：荷の質量が不明でも目測を小さめに見積もって作業する。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。定格能力は作業半径・ジブ条件・アウトリガー張出し幅等に応じて確認する必要がある。
イ：正しい。クレーン作業の基本ポイントでは、つり荷の質量目測を正確に、又はやや多めに行うことが示される。
ウ：誤り。警報は能力限界への接近等を知らせる安全情報であり、無視して作業を続けてはならない。
エ：誤り。クレーン作業の基本ポイントでは、つり荷の質量目測を正確に、又はやや多めに行うことが示される。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。
総合解説：クレーン作業の基本ポイントでは、つり荷の質量目測を正確に、又はやや多めに行うことが示される。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0081

5-3 応用運転 > 作業半径・定格荷重の管理 | 難易度：応用 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「同じ荷なので能力確認は最初の一回だけでよい」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：ジブを伸ばした後も能力を再確認せず同じ荷をつる。
- イ：定格荷重以下なら地盤条件や動荷重は一切考えない。
- ウ：新しい作業半径・ジブ条件で定格能力を再確認してから再開し、安全を確認してから作業を進める
- エ：作業半径が大きくなっても、元の定格荷重をそのまま使う。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。同じ荷でも作業半径やジブ条件が変わればクレーンに作用するモーメントが変わる。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

イ：誤り。地盤支持力とアウトリガーの据付条件を確認し、沈下や転倒を防ぐ必要がある。

ウ：正しい。同じ荷でも作業半径やジブ条件が変わればクレーンに作用するモーメントが変わる。

エ：誤り。定格能力は作業半径・ジブ条件・アウトリガー張出し幅等に応じて確認する必要がある。

総合解説：同じ荷でも作業半径やジブ条件が変わればクレーンに作用するモーメントが変わる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0082

5-3 応用運転 > 作業半径・定格荷重の管理 | 難易度：応用 | 形式：複合

実技練習中、運転者が「静的な荷の質量が定格以下なら、どれだけ急操作しても問題ない」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：ジブを伸ばした後も能力を再確認せず同じ荷をつる。
- イ：荷の質量が不明でも目測を小さめに見積もって作業する。
- ウ：荷の質量だけ見て、ジブ長さや作業半径の条件を確認しない。
- エ：定格内でも急操作を避け、衝撃・慣性による動荷重を生じさせない

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。急加速・急停止は静的な荷重に加えて動的な力を生じるため、定格内でも滑らかな操作が必要である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

イ：誤り。急加速・急停止は静的な荷重に加えて動的な力を生じるため、定格内でも滑らかな操作が必要である。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

ウ：誤り。定格能力は作業半径・ジブ条件・アウトリガー張出し幅等に応じて確認する必要がある。

エ：正しい。急加速・急停止は静的な荷重に加えて動的な力を生じるため、定格内でも滑らかな操作が必要である。

総合解説：急加速・急停止は静的な荷重に加えて動的な力を生じるため、定格内でも滑らかな操作が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0083

5-3 応用運転 > 作業半径・定格荷重の管理 | 難易度：応用 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「定格荷重以下なら横風や荷振れは安全判断に関係しない」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：定格値だけで続行せず、風・振れによる危険を評価し安全に制御できなければ中止し、安全を確認してから作業を進める

イ：作業半径が大きくなっても、元の定格荷重をそのまま使う。

ウ：ジブを伸ばした後も能力を再確認せず同じ荷をつる。

エ：定格荷重表は最大能力だけ見て、現在の作業半径を確認しない。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。定格荷重は重要な基準だが、風や荷振れなどの作業環境による危険を無視してよいことを意味しない。

イ：誤り。定格能力は作業半径・ジブ条件・アウトリガー張出し幅等に応じて確認する必要がある。

ウ：誤り。定格荷重は重要な基準だが、風や荷振れなどの作業環境による危険を無視してよいことを意味しない。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

エ：誤り。定格能力は作業半径・ジブ条件・アウトリガー張出し幅等に応じて確認する必要がある。

総合解説：定格荷重は重要な基準だが、風や荷振れなどの作業環境による危険を無視してよいことを意味しない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0084

5-3 応用運転 > 作業半径・定格荷重の管理 | 難易度：標準 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「荷が動く限り能力内と判断して警報を無視する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：荷の質量だけ見て、ジブ長さや作業半径の条件を確認しない。

イ：操作を止めて荷重・作業半径・ジブ条件を確認し、安全な条件へ戻す

ウ：定格荷重表は最大能力だけ見て、現在の作業半径を確認しない。

エ：アウトリガー張出し幅が変わっても最大張出し時の能力表を使う。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。定格能力は作業半径・ジブ条件・アウトリガー張出し幅等に応じて確認する必要がある。

イ：正しい。過負荷防止装置の警報は能力限界への接近等を知らせる安全情報であり、作業継続の許可ではない。

ウ：誤り。定格能力は作業半径・ジブ条件・アウトリガー張出し幅等に応じて確認する必要がある。

エ：誤り。定格能力は作業半径・ジブ条件・アウトリガー張出し幅等に応じて確認する必要がある。

総合解説：過負荷防止装置の警報は能力限界への接近等を知らせる安全情報であり、作業継続の許可ではない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0085

5-3 応用運転 > 障害物・死角・地盤・設置条件 | 難易度：標準 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「見た目が平らなら支持力は十分とみなし、そのまま設置する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：架空電路が近くても運転者が見えていれば防護措置を省略する。

イ：カウンタウエイトの旋回範囲を作業者の通路として使う。

ウ：地盤・地下構造を確認し、必要な広さ・強度の敷板等で支持を確保してから設置し、安全を確認してから作業を進める

エ：アウトリガーは作業スペース節約のため常に最小張出しにする。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。充電電路への接近には移設・防護・監視等の感電防止措置が必要である。

イ：誤り。移動式クレーンの転倒防止では軟弱地盤や地下工作物による支持力低下を事前に評価する必要がある。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

ウ：正しい。移動式クレーンの転倒防止では軟弱地盤や地下工作物による支持力低下を事前に評価する必要がある。

エ：誤り。地盤支持力とアウトリガーの据付条件を確認し、沈下や転倒を防ぐ必要がある。

総合解説：移動式クレーンの転倒防止では軟弱地盤や地下工作物による支持力低下を事前に評価する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0086

5-3 応用運転 > 障害物・死角・地盤・設置条件 | 難易度：基礎 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「傾きは荷を反対側へ振れば相殺できるので、そのまま作業する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：アウトリガーは作業スペース節約のため常に最小張出しにする。

イ：軟弱地盤でもアウトリガーフロートを直接置き、沈下を確認しながら作業する。

ウ：カウンタウエイトの旋回範囲を作業者の通路として使う。

エ：作業開始前に据付をやり直し、機体の水平状態を確認し、安全を確認してから作業を進める

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。地盤支持力とアウトリガーの据付条件を確認し、沈下や転倒を防ぐ必要がある。

イ：誤り。地盤支持力とアウトリガーの据付条件を確認し、沈下や転倒を防ぐ必要がある。

ウ：誤り。機体の傾斜は安定性・荷重表示の前提を崩すため、荷をつる前に適正な据付状態へ修正する。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

エ：正しい。機体の傾斜は安定性・荷重表示の前提を崩すため、荷をつる前に適正な据付状態へ修正する。

総合解説：機体の傾斜は安定性・荷重表示の前提を崩すため、荷をつる前に適正な据付状態へ修正する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0087

5-3 応用運転 > 障害物・死角・地盤・設置条件 | 難易度：標準 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「アウトリガーを溝の縁ぎりぎりに置けば作業半径が小さくなるので安全とする」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：溝や法肩の崩壊影響を評価し、十分な離隔・補強を確保できないなら設置場所を変更し、安全を確認してから作業を進める

イ：機体が傾いていても操作で荷を反対側へ振って補正する。

ウ：カウンタウエイトの旋回範囲を作業者の通路として使う。

エ：掘削溝の縁ぎりぎりにアウトリガーを設置する。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。掘削部の近傍は地盤崩壊・支持力低下の可能性があるため、単に作業半径だけで安全を判断できない。

イ：誤り。機体や荷の傾きを操作でごまかさず、据付・重心・玉掛けの原因を是正する必要がある。

ウ：誤り。掘削部の近傍は地盤崩壊・支持力低下の可能性があるため、単に作業半径だけで安全を判断できない。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

エ：誤り。地盤支持力とアウトリガーの据付条件を確認し、沈下や転倒を防ぐ必要がある。

総合解説：掘削部の近傍は地盤崩壊・支持力低下の可能性があるため、単に作業半径だけで安全を判断できない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0088

5-3 応用運転 > 障害物・死角・地盤・設置条件 | 難易度：応用 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「作業場所を節約するため常に最小張出しで使用する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：架空電路が近くても運転者が見えていれば防護措置を省略する。

イ：原則としてアウトリガーを最大限に張り出し、水平・支持状態を確認し、安全を確認してから作業を進める

ウ：カウンタウエイトの旋回範囲を作業者の通路として使う。

エ：雨で地盤が軟化しても朝の設置状態が良ければ再確認しない。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。充電電路への接近には移設・防護・監視等の感電防止措置が必要である。

イ：正しい。クレーン等安全規則ではアウトリガーを最大限に張り出すことを原則としている。

ウ：誤り。クレーン等安全規則ではアウトリガーを最大限に張り出すことを原則としている。この選択肢は安全側の手順とは一致しない。

エ：誤り。地盤支持力とアウトリガーの据付条件を確認し、沈下や転倒を防ぐ必要がある。

総合解説：クレーン等安全規則ではアウトリガーを最大限に張り出すことを原則としている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0089

5-3 応用運転 > 障害物・死角・地盤・設置条件 | 難易度：標準 | 形式：複合

実技練習中、運転者が「運転者から電線が見えるので、通常どおり作業する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：アウトリガーは作業スペース節約のため常に最小張出しにする。

イ：機体が傾いていても操作で荷を反対側へ振って補正する。

ウ：電路の移設・囲い・絶縁防護等の必要な措置を講じ、条件によって監視人も配置し、安全を確認してから作業を進める

エ：軟弱地盤でもアウトリガーフロートを直接置き、沈下を確認しながら作業する。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。地盤支持力とアウトリガーの据付条件を確認し、沈下や転倒を防ぐ必要がある。

イ：誤り。機体や荷の傾きを操作でごまかさず、据付・重心・玉掛けの原因を是正する必要がある。

ウ：正しい。充電電路への接近で感電のおそれがある場合は、法令に基づく防護・監視等の措置が必要である。

エ：誤り。地盤支持力とアウトリガーの据付条件を確認し、沈下や転倒を防ぐ必要がある。

総合解説：充電電路への接近で感電のおそれがある場合は、法令に基づく防護・監視等の措置が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0090

5-3 応用運転 > 障害物・死角・地盤・設置条件 | 難易度：標準 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「荷が見えなくなった後は予測で操作し、合図は到着時だけ受ける」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

ア：掘削溝の縁ぎりぎりにアウトリガーを設置する。

イ：機体が傾いていても操作で荷を反対側へ振って補正する。

ウ：雨で地盤が軟化しても朝の設置状態が良ければ再確認しない。

エ：合図者が荷と運転者の双方を安全に確認できる体制を作り、合図が不明なら停止し、安全を確認してから作業を進める

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。地盤支持力とアウトリガーの据付条件を確認し、沈下や転倒を防ぐ必要がある。

イ：誤り。機体や荷の傾きを操作でごまかさず、据付・重心・玉掛けの原因を是正する必要がある。

ウ：誤り。地盤支持力とアウトリガーの据付条件を確認し、沈下や転倒を防ぐ必要がある。

エ：正しい。死角作業では一定の合図と適切な位置の合図者で運転者の視界を補うことが重要である。

総合解説：死角作業では一定の合図と適切な位置の合図者で運転者の視界を補うことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0091

5-3 応用運転 > 障害物・死角・地盤・設置条件 | 難易度：応用 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「つり荷側だけを立入禁止にし、カウンタウエイト側は通路として使用する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：旋回範囲を立入禁止とし、人が挟まれるおそれのある区域から退避させる
- イ：軟弱地盤でもアウトリガーフロートを直接置き、沈下を確認しながら作業する。
- ウ：死角側の作業でも合図者を置かず運転者の推測で操作する。
- エ：機体が傾いていても操作で荷を反対側へ振って補正する。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。上部旋回体との接触により危険が生じる箇所には立入りを禁止する必要がある。
イ：誤り。地盤支持力とアウトリガーの据付条件を確認し、沈下や転倒を防ぐ必要がある。
ウ：誤り。死角では一定の合図と合図者による確認を用い、見えない状態で推測運転をしない。
エ：誤り。機体や荷の傾きを操作でごまかさず、据付・重心・玉掛けの原因を是正する必要がある。
総合解説：上部旋回体との接触により危険が生じる箇所には立入りを禁止する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0092

5-3 応用運転 > 障害物・死角・地盤・設置条件 | 難易度：基礎 | 形式：判断

実技練習中、運転者が「警報装置があるので通常の通行を認めたまま作業する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：アウトリガーは作業スペース節約のため常に最小張出しにする。
- イ：作業区域と通行動線を分離し、必要な立入規制・誘導を行う
- ウ：雨で地盤が軟化しても朝の設置状態が良ければ再確認しない。
- エ：機体が傾いていても操作で荷を反対側へ振って補正する。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。地盤支持力とアウトリガーの据付条件を確認し、沈下や転倒を防ぐ必要がある。
イ：正しい。周囲状況の安全確認と危険区域への立入防止は、移動式クレーン作業の基本である。
ウ：誤り。地盤支持力とアウトリガーの据付条件を確認し、沈下や転倒を防ぐ必要がある。
エ：誤り。機体や荷の傾きを操作でごまかさず、据付・重心・玉掛けの原因を是正する必要がある。
総合解説：周囲状況の安全確認と危険区域への立入防止は、移動式クレーン作業の基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0093

5-3 応用運転 > 障害物・死角・地盤・設置条件 | 難易度：基礎 | 形式：事例

実技練習中、運転者が「朝の点検が済んでいるので、地盤変化は確認せず続ける」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：作業を停止して沈下・傾斜・支持状態を再確認し、必要なら据え直す
イ：架空電路が近くても運転者が見えていれば防護措置を省略する。
ウ：雨で地盤が軟化しても朝の設置状態が良ければ再確認しない。
エ：死角側の作業でも合図者を置かず運転者の推測で操作する。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。地盤状態は降雨等で変化するため、条件が変わった場合は設置状態を再評価する必要がある。
イ：誤り。充電電路への接近には移設・防護・監視等の感電防止措置が必要である。
ウ：誤り。地盤支持力とアウトリガーの据付条件を確認し、沈下や転倒を防ぐ必要がある。
エ：誤り。死角では一定の合図と合図者による確認を用い、見えない状態で推測運転をしない。
総合解説：地盤状態は降雨等で変化するため、条件が変わった場合は設置状態を再評価する必要がある。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0094

5-3 応用運転 > 障害物・死角・地盤・設置条件 | 難易度：標準 | 形式：複合

実技練習中、運転者が「低速なら接触しても被害が小さいと考え、そのまま通過する」という対応を取ろうとした。安全上の見直しとして最も適切なものはどれか。

- ア：機体が傾いていても操作で荷を反対側へ振って補正する。
イ：無理に通過せず、機械位置・ジブ条件・運搬経路を見直して十分な離隔を確保し、安全を確認してから作業を進める
ウ：掘削溝の縁ぎりぎりにアウトリガーを設置する。
エ：架空電路が近くても運転者が見えていれば防護措置を省略する。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。機体や荷の傾きを操作でごまかさず、据付・重心・玉掛けの原因を是正する必要がある。
イ：正しい。障害物との離隔が不足する場合は、操作の巧拙で押し切らず作業条件そのものを変更する。
ウ：誤り。地盤支持力とアウトリガーの据付条件を確認し、沈下や転倒を防ぐ必要がある。
エ：誤り。充電電路への接近には移設・防護・監視等の感電防止措置が必要である。
総合解説：障害物との離隔が不足する場合は、操作の巧拙で押し切らず作業条件そのものを変更する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0095

5-4 合図 > 呼び出し・巻上げ・巻下げの合図 | 難易度：標準 | 形式：知識

実技対策の場面で、運転者または合図者が「荷を動かし始めてから呼び出し合図を行う」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：荷が動き始めてから呼び出し合図を行い、運転者の注意を向ける。
イ：合図の途中で別方向を向き、運転者から手の動きが見えなくても続ける。
ウ：運転者から見える位置で片手を高く上げ、まず呼び出しの合図を行う
エ：合図が見えにくい場合でも、運転者が推測できるとして動作を続ける。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。一般的な手による合図では、呼び出しは片手を高く上げて運転者の注意を合図者へ向ける動作として示される。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

イ：誤り。一般的な手による合図では、呼び出しは片手を高く上げて運転者の注意を合図者へ向ける動作として示される。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

ウ：正しい。一般的な手による合図では、呼び出しは片手を高く上げて運転者の注意を合図者へ向ける動作として示される。

エ：誤り。運転者が合図を確実に認識できない状態での操作継続は、指示の見落としや誤認につながる。

総合解説：一般的な手による合図では、呼び出しは片手を高く上げて運転者の注意を合図者へ向ける動作として示される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0096

5-4 合図 > 呼び出し・巻上げ・巻下げの合図 | 難易度：標準 | 形式：知識

実技対策の場面で、運転者または合図者が「腕をほぼ水平にし、手のひらを下へ向けて下方に振る」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：巻上げと巻下げで同じ手の動きを使い、声の大きさだけで区別する。
イ：荷が動き始めてから呼び出し合図を行い、運転者の注意を向ける。
ウ：合図の途中で別方向を向き、運転者から手の動きが見えなくても続ける。
エ：片手を高く上げ、頭上付近で輪を描くようにして巻上げを示す

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。合図は一定の方法と指示系統に統一し、意味の取り違えを防ぐ必要がある。

イ：誤り。一般的な手合図では、巻上げは片手を高く上げて輪を描く動作で示される。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

ウ：誤り。一般的な手合図では、巻上げは片手を高く上げて輪を描く動作で示される。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

エ：正しい。一般的な手合図では、巻上げは片手を高く上げて輪を描く動作で示される。

総合解説：一般的な手合図では、巻上げは片手を高く上げて輪を描く動作で示される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0097

5-4 合図 > 呼び出し・巻上げ・巻下げの合図 | 難易度：標準 | 形式：知識

実技対策の場面で、運転者または合図者が「片手を高く上げ、頭上で輪を描いて示す」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

ア：腕を見やすい位置に上げ、手のひらを下向きにして下方へ振り、巻下げを示す

イ：呼び出し合図をせず、運転者が自分に向いているかを確認しないまま次の合図へ進む。

ウ：巻上げ・巻下げの方向は、その場の作業者ごとに自由な方法で示す。

エ：荷が動き始めてから呼び出し合図を行い、運転者の注意を向ける。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。一般的な手合図では、巻下げは手のひらを下向きにして下方へ振る動作で示される。

イ：誤り。運転者が合図を確実に認識できない状態での操作継続は、指示の見落としや誤認につながる。

ウ：誤り。合図は一定の方法と指示系統に統一し、意味の取り違えを防ぐ必要がある。

エ：誤り。一般的な手合図では、巻下げは手のひらを下向きにして下方へ振る動作で示される。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

総合解説：一般的な手合図では、巻下げは手のひらを下向きにして下方へ振る動作で示される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0098

5-4 合図 > 呼び出し・巻上げ・巻下げの合図 | 難易度：標準 | 形式：判断

実技対策の場面で、運転者または合図者が「巻上げと巻下げで同じ手の動きを使い、声だけで方向を補う」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

ア：巻下げでは片手を高く上げ、頭上で輪を描く。

イ：巻上げと巻下げを区別できる大きく明瞭な動作で合図し、確認できれば停止してやり直す

ウ：巻上げと巻下げで同じ手の動きを使い、声の大きさだけで区別する。

エ：荷が動き始めてから呼び出し合図を行い、運転者の注意を向ける。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。上下方向の誤認は重大な誤操作につながるため、合図は大きく明瞭に区別する必要がある。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

イ：正しい。上下方向の誤認は重大な誤操作につながるため、合図は大きく明瞭に区別する必要がある。

ウ：誤り。合図は一定の方法と指示系統に統一し、意味の取り違えを防ぐ必要がある。

エ：誤り。上下方向の誤認は重大な誤操作につながるため、合図は大きく明瞭に区別する必要がある。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

総合解説：上下方向の誤認は重大な誤操作につながるため、合図は大きく明瞭に区別する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0099

5-4 合図 > 呼び出し・巻上げ・巻下げの合図 | 難易度：基礎 | 形式：判断

実技対策の場面で、運転者または合図者が「運転者が見ていないまま巻上げ合図を続け、気付いた時点から操作してもらう」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：荷が動き始めてから呼び出し合図を行い、運転者の注意を向ける。
イ：巻上げと巻下げで同じ手の動きを使い、声の大きさだけで区別する。
ウ：まず呼び出しで注意を向け、運転者が確認した後に巻上げ等の具体的合図を行う
エ：呼び出し合図をせず、運転者が自分に向いているかを確認しないまま次の合図へ進む。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。合図は運転者が認識できる状態で伝える必要があり、呼び出しは具体的動作の指示に先立つ基本的な合図である。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。
イ：誤り。合図は一定の方法と指示系統に統一し、意味の取り違えを防ぐ必要がある。
ウ：正しい。合図は運転者が認識できる状態で伝える必要があり、呼び出しは具体的動作の指示に先立つ基本的な合図である。
エ：誤り。運転者が合図を確実に認識できない状態での操作継続は、指示の見落としや誤認につながる。
総合解説：合図は運転者が認識できる状態で伝える必要があり、呼び出しは具体的動作の指示に先立つ基本的な合図である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0100

5-4 合図 > 呼び出し・巻上げ・巻下げの合図 | 難易度：応用 | 形式：事例

実技対策の場面で、運転者または合図者が「一度の巻上げ合図で必要高さまで連続して上げ、途中確認を省略する」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：巻上げと巻下げで同じ手の動きを使い、声の大きさだけで区別する。
イ：呼び出し合図をせず、運転者が自分に向いているかを確認しないまま次の合図へ進む。
ウ：合図が見えにくい場合でも、運転者が推測できるとして動作を続ける。
エ：低速で巻上げを指示し、ロープの張りや玉掛け状態を確認できる低い位置で一旦停止させる

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。合図は一定の方法と指示系統に統一し、意味の取り違えを防ぐ必要がある。
イ：誤り。運転者が合図を確実に認識できない状態での操作継続は、指示の見落としや誤認につながる。
ウ：誤り。運転者が合図を確実に認識できない状態での操作継続は、指示の見落としや誤認につながる。
エ：正しい。地切りではロープが張った段階や荷がわずかに浮いた段階で安全を確認し、必要に応じて停止を入れることが重要である。
総合解説：地切りではロープが張った段階や荷がわずかに浮いた段階で安全を確認し、必要に応じて停止を入れることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0101

5-4 合図 > 呼び出し・巻上げ・巻下げの合図 | 難易度：標準 | 形式：事例

実技対策の場面で、運転者または合図者が「接地まで連続して大きな巻下げ合図を出し、床に当たってから停止させる」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：着床直前は巻下げ量を小さくし、位置と安定を確認しながら巻下げと停止の合図を使い分ける
イ：巻上げでは腕を下げたまま手のひらを下向きに振る。
ウ：荷が動き始めてから呼び出し合図を行い、運転者の注意を向ける。
エ：巻下げでは片手を高く上げ、頭上で輪を描く。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。荷卸しでは床面に近づいた段階で一旦停止し、安全に着床できることを確認してから巻下げるのが安全である。
イ：誤り。荷卸しでは床面に近づいた段階で一旦停止し、安全に着床できることを確認してから巻下げるのが安全である。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。
ウ：誤り。荷卸しでは床面に近づいた段階で一旦停止し、安全に着床できることを確認してから巻下げるのが安全である。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。
エ：誤り。荷卸しでは床面に近づいた段階で一旦停止し、安全に着床できることを確認してから巻下げるのが安全である。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。
総合解説：荷卸しでは床面に近づいた段階で一旦停止し、安全に着床できることを確認してから巻下げるのが安全である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0102

5-4 合図 > 呼び出し・巻上げ・巻下げの合図 | 難易度：標準 | 形式：事例

実技対策の場面で、運転者または合図者が「最後に見えた巻上げ合図をそのまま継続する」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：巻上げ・巻下げの方向は、その場の作業者ごとに自由な方法で示す。
イ：操作を停止し、再び合図を確実に確認できる体制を整えてから再開することを優先する
ウ：巻上げと巻下げで同じ手の動きを使い、声の大きさだけで区別する。
エ：合図の途中で別方向を向き、運転者から手の動きが見えなくても続ける。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。合図は一定の方法と指示系統に統一し、意味の取り違えを防ぐ必要がある。
イ：正しい。合図が確認できない状態では運転者が指示の変更や停止を把握できないため、推測せず停止して確認する必要がある。
ウ：誤り。合図は一定の方法と指示系統に統一し、意味の取り違えを防ぐ必要がある。
エ：誤り。合図が確認できない状態では運転者が指示の変更や停止を把握できないため、推測せず停止して確認する必要がある。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。
総合解説：合図が確認できない状態では運転者が指示の変更や停止を把握できないため、推測せず停止して確認する必要がある。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0103

5-4 合図 > 呼び出し・巻上げ・巻下げの合図 | 難易度：応用 | 形式：判断

実技対策の場面で、運転者または合図者が「各人が普段使っている表現を自由に使い、運転者がその都度解釈する」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

ア：巻上げ・巻下げの方向は、その場の作業者ごとに自由な方法で示す。

イ：呼び出し合図をせず、運転者が自分に向いているかを確認しないまま次の合図へ進む。

ウ：作業前に用語と手順を統一し、誰の指示を運転合図として扱うか明確にすることを優先する

エ：巻下げでは片手を高く上げ、頭上で輪を描く。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。合図は一定の方法と指示系統に統一し、意味の取り違えを防ぐ必要がある。

イ：誤り。運転者が合図を確実に認識できない状態での操作継続は、指示の見落としや誤認につながる。

ウ：正しい。法令上は一定の合図を定めることが求められ、手・旗・音声等を使う場合も意味と発信者を統一することが重要である。

エ：誤り。法令上は一定の合図を定めることが求められ、手・旗・音声等を使う場合も意味と発信者を統一することが重要である。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

総合解説：法令上は一定の合図を定めることが求められ、手・旗・音声等を使う場合も意味と発信者を統一することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0104

5-4 合図 > 呼び出し・巻上げ・巻下げの合図 | 難易度：標準 | 形式：複合

実技対策の場面で、運転者または合図者が「最初に巻上げ合図を出した以上、所定高さまで同じ合図を続ける」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

ア：呼び出し合図をせず、運転者が自分に向いているかを確認しないまま次の合図へ進む。

イ：巻上げと巻下げで同じ手の動きを使い、声の大きさだけで区別する。

ウ：巻上げでは腕を下げたまま手のひらを下向きに振る。

エ：予定の巻上げを中断して停止を示し、障害物との離隔を確認してから新たな合図を行う

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。運転者が合図を確実に認識できない状態での操作継続は、指示の見落としや誤認につながる。

イ：誤り。合図は一定の方法と指示系統に統一し、意味の取り違えを防ぐ必要がある。

ウ：誤り。合図は一度出したら固定するものではなく、荷や周囲の状態に応じて停止・修正する必要がある。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

エ：正しい。合図は一度出したら固定するものではなく、荷や周囲の状態に応じて停止・修正する必要がある。

総合解説：合図は一度出したら固定するものではなく、荷や周囲の状態に応じて停止・修正する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0105

5-4 合図 > 水平移動・旋回・停止・緊急停止の合図 | 難易度：応用 | 形式：知識

実技対策の場面で、運転者または合図者が「腕を上下に振るだけで、移動方向は運転者に任せる」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：腕を見やすい位置に伸ばし、手のひらを移動方向へ向けて数回動かす
イ：障害物が近づいても、水平移動の合図を出したまま速度調整を運転者任せにする。
ウ：緊急時には通常停止より小さな動作で合図し、周囲を驚かせないようにする。
エ：急停止が必要でも、予定していた停止位置まで運転を続けてから止める。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。一般的な手合図では、水平移動は手のひらを移動方向へ向けて動かし、方向を明確に示す。
イ：誤り。一般的な手合図では、水平移動は手のひらを移動方向へ向けて動かし、方向を明確に示す。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。
ウ：誤り。一般的な手合図では、水平移動は手のひらを移動方向へ向けて動かし、方向を明確に示す。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。
エ：誤り。一般的な手合図では、水平移動は手のひらを移動方向へ向けて動かし、方向を明確に示す。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。
総合解説：一般的な手合図では、水平移動は手のひらを移動方向へ向けて動かし、方向を明確に示す。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0106

5-4 合図 > 水平移動・旋回・停止・緊急停止の合図 | 難易度：標準 | 形式：判断

実技対策の場面で、運転者または合図者が「旋回方向は運転者が決めるものとして、合図者は開始だけを知らせる」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：旋回方向は運転者が判断するものとして、合図者は停止だけを示す。
イ：運転者から確認できる位置で、旋回させる方向を明確に示す水平移動系の合図を行う
ウ：急停止が必要でも、予定していた停止位置まで運転を続けてから止める。
エ：停止合図を受けた後も、荷振れを減らすために数秒間だけ同じ方向へ操作を続ける。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。一般的な手合図では水平移動に走行・旋回を含め、移動させる方向を示して伝える。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。
イ：正しい。一般的な手合図では水平移動に走行・旋回を含め、移動させる方向を示して伝える。
ウ：誤り。一般的な手合図では水平移動に走行・旋回を含め、移動させる方向を示して伝える。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。
エ：誤り。一般的な手合図では水平移動に走行・旋回を含め、移動させる方向を示して伝える。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。
総合解説：一般的な手合図では水平移動に走行・旋回を含め、移動させる方向を示して伝える。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0107

5-4 合図 > 水平移動・旋回・停止・緊急停止の合図 | 難易度：標準 | 形式：知識

実技対策の場面で、運転者または合図者が「水平移動の合図を続けたまま、運転者が適切な位置で止めるのを待つ」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：障害物が近づいても、水平移動の合図を出したまま速度調整を運転者任せにする。
イ：停止合図を受けた後も、荷振れを減らすために数秒間だけ同じ方向へ操作を続ける。
ウ：手のひらを高く上げるなど、定めた停止の合図を明瞭に示す
エ：緊急時には通常停止より小さな動作で合図し、周囲を驚かせないようにする。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。一般的な手合図では停止を独立した合図として示し、運転者に操作停止を明確に伝える。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

イ：誤り。一般的な手合図では停止を独立した合図として示し、運転者に操作停止を明確に伝える。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

ウ：正しい。一般的な手合図では停止を独立した合図として示し、運転者に操作停止を明確に伝える。

エ：誤り。一般的な手合図では停止を独立した合図として示し、運転者に操作停止を明確に伝える。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

総合解説：一般的な手合図では停止を独立した合図として示し、運転者に操作停止を明確に伝える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0108

5-4 合図 > 水平移動・旋回・停止・緊急停止の合図 | 難易度：標準 | 形式：知識

実技対策の場面で、運転者または合図者が「通常停止より小さな動作で合図し、荷が予定位置に近づくまで待つ」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：停止合図を受けた後も、荷振れを減らすために数秒間だけ同じ方向へ操作を続ける。
イ：障害物が近づいても、水平移動の合図を出したまま速度調整を運転者任せにする。
ウ：緊急時には通常停止より小さな動作で合図し、周囲を驚かせないようにする。
エ：両手を高く上げて大きく左右に振るなど、定めた急停止合図を即座に明瞭に行う

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。一般的な手合図では急停止は通常停止と明確に区別できる大きな動作で示される。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

イ：誤り。一般的な手合図では急停止は通常停止と明確に区別できる大きな動作で示される。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

ウ：誤り。一般的な手合図では急停止は通常停止と明確に区別できる大きな動作で示される。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

エ：正しい。一般的な手合図では急停止は通常停止と明確に区別できる大きな動作で示される。

総合解説：一般的な手合図では急停止は通常停止と明確に区別できる大きな動作で示される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0109

5-4 合図 > 水平移動・旋回・停止・緊急停止の合図 | 難易度：基礎 | 形式：判断

実技対策の場面で、運転者または合図者が「荷振れが小さいので、数秒だけ同じ方向へ操作を続ける」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

ア：速やかに操作を止め、荷の状態を安定させて次の明確な合図を待つ

イ：合図者が見えなくなっても、最後に示された方向へ移動を継続する。

ウ：停止合図を受けた後も、荷振れを減らすために数秒間だけ同じ方向へ操作を続ける。

エ：障害物が近づいても、水平移動の合図を出したまま速度調整を運転者任せにする。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。作業従事者は定められた合図に従う必要があり、停止合図を受けたら運転を継続しない。

イ：誤り。作業従事者は定められた合図に従う必要があり、停止合図を受けたら運転を継続しない。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

ウ：誤り。作業従事者は定められた合図に従う必要があり、停止合図を受けたら運転を継続しない。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

エ：誤り。作業従事者は定められた合図に従う必要があり、停止合図を受けたら運転を継続しない。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

総合解説：作業従事者は定められた合図に従う必要があり、停止合図を受けたら運転を継続しない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0110

5-4 合図 > 水平移動・旋回・停止・緊急停止の合図 | 難易度：標準 | 形式：事例

実技対策の場面で、運転者または合図者が「旋回だけ止め、巻下げは着床するまで続ける」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

ア：障害物が近づいても、水平移動の合図を出したまま速度調整を運転者任せにする。

イ：両方の操作を直ちに停止方向へ戻し、荷と機械の安全状態を確認することを優先する

ウ：合図者が見えなくなっても、最後に示された方向へ移動を継続する。

エ：停止合図を受けた後も、荷振れを減らすために数秒間だけ同じ方向へ操作を続ける。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。急停止は危険を回避するための合図であり、危険に関係する動作を速やかに止めて状態を確認する必要がある。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

イ：正しい。急停止は危険を回避するための合図であり、危険に関係する動作を速やかに止めて状態を確認する必要がある。

ウ：誤り。急停止は危険を回避するための合図であり、危険に関係する動作を速やかに止めて状態を確認する必要がある。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

エ：誤り。急停止は危険を回避するための合図であり、危険に関係する動作を速やかに止めて状態を確認する必要がある。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

総合解説：急停止は危険を回避するための合図であり、危険に関係する動作を速やかに止めて状態を確認する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0111

5-4 合図 > 水平移動・旋回・停止・緊急停止の合図 | 難易度：標準 | 形式：事例

実技対策の場面で、運転者または合図者が「そのまま水平移動合図を続け、障害物の横を早く通過させる」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：停止合図を受けた後も、荷振れを減らすために数秒間だけ同じ方向へ操作を続ける。
イ：合図者が見えなくなっても、最後に示された方向へ移動を継続する。
ウ：移動の合図を止めて停止を示し、荷振れが収まるまで安全を確保することを優先する
エ：水平移動では移動方向を示さず、腕を上下に振るだけにする。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。合図者は荷と周囲の状態を監視し、危険が増した場合は予定経路の継続より停止を優先する。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

イ：誤り。合図者は荷と周囲の状態を監視し、危険が増した場合は予定経路の継続より停止を優先する。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

ウ：正しい。合図者は荷と周囲の状態を監視し、危険が増した場合は予定経路の継続より停止を優先する。

エ：誤り。合図者は荷と周囲の状態を監視し、危険が増した場合は予定経路の継続より停止を優先する。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

総合解説：合図者は荷と周囲の状態を監視し、危険が増した場合は予定経路の継続より停止を優先する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0112

5-4 合図 > 水平移動・旋回・停止・緊急停止の合図 | 難易度：応用 | 形式：複合

実技対策の場面で、運転者または合図者が「荷側が安全なので旋回合図を続け、後方は運転者に任せる」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：旋回方向は運転者が判断するものとして、合図者は停止だけを示す。
イ：合図者が見えなくなっても、最後に示された方向へ移動を継続する。
ウ：障害物が近づいても、水平移動の合図を出したまま速度調整を運転者任せにする。
エ：直ちに停止を示して旋回を止め、作業者を危険区域から退避させる

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。移動式クレーンでは上部旋回体との接触危険区域への立入りを防ぐ必要があり、合図者も旋回体側を含めて監視する。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

イ：誤り。移動式クレーンでは上部旋回体との接触危険区域への立入りを防ぐ必要があり、合図者も旋回体側を含めて監視する。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

ウ：誤り。移動式クレーンでは上部旋回体との接触危険区域への立入りを防ぐ必要があり、合図者も旋回体側を含めて監視する。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

エ：正しい。移動式クレーンでは上部旋回体との接触危険区域への立入りを防ぐ必要があり、合図者も旋回体側を含めて監視する。

総合解説：移動式クレーンでは上部旋回体との接触危険区域への立入りを防ぐ必要があり、合図者も旋回体側を含めて監視する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0113

5-4 合図 > 水平移動・旋回・停止・緊急停止の合図 | 難易度：基礎 | 形式：判断

実技対策の場面で、運転者または合図者が「水平移動と巻下げの合図を同時に出し、運転者に順序を判断させる」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：水平移動を明確に止めて停止を確認した後、巻下げの合図へ切り替える
- イ：急停止が必要でも、予定していた停止位置まで運転を続けてから止める。
- ウ：障害物が近づいても、水平移動の合図を出したまま速度調整を運転者任せにする。
- エ：停止合図を受けた後も、荷振れを減らすために数秒間だけ同じ方向へ操作を続ける。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。複数の指示を曖昧に重ねると誤認しやすいため、動作の区切りごとに合図を明確にする。
イ：誤り。複数の指示を曖昧に重ねると誤認しやすいため、動作の区切りごとに合図を明確にする。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。
ウ：誤り。複数の指示を曖昧に重ねると誤認しやすいため、動作の区切りごとに合図を明確にする。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。
エ：誤り。複数の指示を曖昧に重ねると誤認しやすいため、動作の区切りごとに合図を明確にする。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。
総合解説：複数の指示を曖昧に重ねると誤認しやすいため、動作の区切りごとに合図を明確にする。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0114

5-4 合図 > 水平移動・旋回・停止・緊急停止の合図 | 難易度：標準 | 形式：判断

実技対策の場面で、運転者または合図者が「最後の旋回合図が解除されていないので、そのまま旋回を続ける」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：緊急時には通常停止より小さな動作で合図し、周囲を驚かせないようにする。
- イ：操作を停止し、合図を再び確実に確認できる位置関係を整える
- ウ：通常停止と急停止を同じ曖昧な小さな動作で示す。
- エ：旋回方向は運転者が判断するものとして、合図者は停止だけを示す。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。合図を確認できないまま運転を続けると、停止や方向変更を受け取れないため停止して再確認するのが安全である。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。
イ：正しい。合図を確認できないまま運転を続けると、停止や方向変更を受け取れないため停止して再確認するのが安全である。
ウ：誤り。合図を確認できないまま運転を続けると、停止や方向変更を受け取れないため停止して再確認するのが安全である。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。
エ：誤り。合図を確認できないまま運転を続けると、停止や方向変更を受け取れないため停止して再確認するのが安全である。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。
総合解説：合図を確認できないまま運転を続けると、停止や方向変更を受け取れないため停止して再確認するのが安全である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0115

5-4 合図 > 合図者の確認・合図の統一 | 難易度：基礎 | 形式：知識

実技対策の場面で、運転者または合図者が「合図方法は各作業者がその場で分かりやすい方法を選ぶ」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：合図方法の確認は初回だけでよく、作業条件や人員が変わっても再確認しない。
- イ：作業開始後に各自が分かりやすいと思う合図へ自由に変更する。
- ウ：作業前に使用する合図の意味を一定に定め、関係者で確認することを優先する
- エ：単独作業でない場合も、運転者が慣れていれば合図者を置かなくてよい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。クレーン等安全規則では、移動式クレーンの運転について一定の合図を定めることが求められている。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

イ：誤り。合図は一定の方法と指示系統に統一し、意味の取り違えを防ぐ必要がある。

ウ：正しい。クレーン等安全規則では、移動式クレーンの運転について一定の合図を定めることが求められている。

エ：誤り。クレーン等安全規則では、移動式クレーンの運転について一定の合図を定めることが求められている。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

総合解説：クレーン等安全規則では、移動式クレーンの運転について一定の合図を定めることが求められている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0116

5-4 合図 > 合図者の確認・合図の統一 | 難易度：標準 | 形式：知識

実技対策の場面で、運転者または合図者が「誰でも危険でない限り自由に運転合図を出せるようにする」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：合図者を決めず、最も運転者に近い人が都度合図を行う。
- イ：作業開始後に各自が分かりやすいと思う合図へ自由に変更する。
- ウ：合図方法の確認は初回だけでよく、作業条件や人員が変わっても再確認しない。
- エ：運転合図を行う者を明確に指名し、運転者と関係者へ周知することを優先する

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。クレーン等安全規則では、一定の合図を定めたとえで合図を行う者を指名することが原則である。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

イ：誤り。合図は一定の方法と指示系統に統一し、意味の取り違えを防ぐ必要がある。

ウ：誤り。クレーン等安全規則では、一定の合図を定めたとえで合図を行う者を指名することが原則である。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

エ：正しい。クレーン等安全規則では、一定の合図を定めたとえで合図を行う者を指名することが原則である。

総合解説：クレーン等安全規則では、一定の合図を定めたとえで合図を行う者を指名することが原則である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0117

5-4 合図 > 合図者の確認・合図の統一 | 難易度：基礎 | 形式：知識

実技対策の場面で、運転者または合図者が「近くにいる作業者の声を優先し、指定合図者の停止を無視する」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：定められた合図を優先し、停止したうえで指示関係を整理することを優先する
- イ：運転者から合図者が見えなくなっても、合図内容を推測して操作する。
- ウ：合図方法の確認は初回だけでよく、作業条件や人員が変わっても再確認しない。
- エ：単独作業でない場合も、運転者が慣れていれば合図者を置かなくてよい。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。作業に従事する者は定められた合図に従う必要があり、指示系統を曖昧にしてはならない。
イ：誤り。運転者が合図を確実に認識できない状態での操作継続は、指示の見落としや誤認につながる。
ウ：誤り。作業に従事する者は定められた合図に従う必要があり、指示系統を曖昧にしてはならない。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。
エ：誤り。作業に従事する者は定められた合図に従う必要があり、指示系統を曖昧にしてはならない。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。
総合解説：作業に従事する者は定められた合図に従う必要があり、指示系統を曖昧にしてはならない。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0118

5-4 合図 > 合図者の確認・合図の統一 | 難易度：基礎 | 形式：知識

実技対策の場面で、運転者または合図者が「単独作業でなくとも運転者が熟練していれば合図者を省略できる」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：合図者を決めず、最も運転者に近い人が都度合図を行う。
- イ：運転者が単独で作業を行う場合は、法令上の合図者指名の例外とすることがある
- ウ：作業開始後に各自が分かりやすいと思う合図へ自由に変更する。
- エ：合図方法の確認は初回だけでよく、作業条件や人員が変わっても再確認しない。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。クレーン等安全規則第71条は、運転者に単独で作業を行わせる場合を合図者指名の例外としている。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。
イ：正しい。クレーン等安全規則第71条は、運転者に単独で作業を行わせる場合を合図者指名の例外としている。
ウ：誤り。合図は一定の方法と指示系統に統一し、意味の取り違えを防ぐ必要がある。
エ：誤り。クレーン等安全規則第71条は、運転者に単独で作業を行わせる場合を合図者指名の例外としている。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。
総合解説：クレーン等安全規則第71条は、運転者に単独で作業を行わせる場合を合図者指名の例外としている。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0119

5-4 合図 > 合図者の確認・合図の統一 | 難易度：基礎 | 形式：判断

実技対策の場面で、運転者または合図者が「合図者は荷の直下に入り、最も近い位置から手合図を出す」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：作業開始後に各自が分かりやすいと思う合図へ自由に変更する。
イ：運転者から合図者が見えなくなっても、合図内容を推測して操作する。
ウ：合図者は荷・経路を確認でき、かつ運転者から合図を確認しやすい安全な位置を選ぶ
エ：合図が不明瞭でも停止せず、荷の動きを見ながら意味を推測する。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。合図は一定の方法と指示系統に統一し、意味の取り違えを防ぐ必要がある。
イ：誤り。運転者が合図を確実に認識できない状態での操作継続は、指示の見落としや誤認につながる。
ウ：正しい。合図者は危険区域を避けつつ、運転者と荷・経路の状態を結び付けられる位置で合図する必要がある。
エ：誤り。運転者が合図を確実に認識できない状態での操作継続は、指示の見落としや誤認につながる。
総合解説：合図者は危険区域を避けつつ、運転者と荷・経路の状態を結び付けられる位置で合図する必要がある。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0120

5-4 合図 > 合図者の確認・合図の統一 | 難易度：応用 | 形式：判断

実技対策の場面で、運転者または合図者が「荷の動きから合図の意味を推測して操作を続ける」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：合図方法の確認は初回だけでよく、作業条件や人員が変わっても再確認しない。
イ：単独作業でない場合も、運転者が慣れていれば合図者を置かなくてよい。
ウ：合図が不明瞭でも停止せず、荷の動きを見ながら意味を推測する。
エ：操作を停止し、合図者の位置や方法を調整して意味を確認することを優先する

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。合図は運転者が明確に認識できることが前提であり、不明確な場合は推測せず停止するのが安全である。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。
イ：誤り。合図は運転者が明確に認識できることが前提であり、不明確な場合は推測せず停止するのが安全である。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。
ウ：誤り。運転者が合図を確実に認識できない状態での操作継続は、指示の見落としや誤認につながる。
エ：正しい。合図は運転者が明確に認識できることが前提であり、不明確な場合は推測せず停止するのが安全である。
総合解説：合図は運転者が明確に認識できることが前提であり、不明確な場合は推測せず停止するのが安全である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0121

5-4 合図 > 合図者の確認・合図の統一 | 難易度：基礎 | 形式：事例

実技対策の場面で、運転者または合図者が「朝に決めた合図を、その後の視界や騒音条件に関係なく変更せず使う」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：見え方・聞こえ方を踏まえて合図手段と用語を再確認し、確実に伝達できる方法へ整える
イ：作業開始後に各自が分かりやすいと思う合図へ自由に変更する。
ウ：合図者を決めず、最も運転者に近い人が都度合図を行う。
エ：合図が不明瞭でも停止せず、荷の動きを見ながら意味を推測する。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。一定の合図を定めても、伝達自体が不確実になれば安全な運転指示として機能しないため、条件に応じて確認が必要である。

イ：誤り。合図は一定の方法と指示系統に統一し、意味の取り違えを防ぐ必要がある。

ウ：誤り。一定の合図を定めても、伝達自体が不確実になれば安全な運転指示として機能しないため、条件に応じて確認が必要である。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

エ：誤り。運転者が合図を確実に認識できない状態での操作継続は、指示の見落としや誤認につながる。

総合解説：一定の合図を定めても、伝達自体が不確実になれば安全な運転指示として機能しないため、条件に応じて確認が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0122

5-4 合図 > 合図者の確認・合図の統一 | 難易度：標準 | 形式：複合

実技対策の場面で、運転者または合図者が「複数人が同じ無線で自由に指示し、運転者が声を聞き分ける」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：合図者を決めず、最も運転者に近い人が都度合図を行う。
イ：無線で使用する呼称・動作語・停止語と発信者をあらかじめ統一することを優先する
ウ：同じ荷に対して複数人が同時に異なる運転合図を出す。
エ：合図者は荷だけを見ればよく、運転者から見える位置にいる必要はない。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。無線も運転の合図として用いるなら、意味と指示者を一定にして誤認を防ぐ必要がある。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

イ：正しい。無線も運転の合図として用いるなら、意味と指示者を一定にして誤認を防ぐ必要がある。

ウ：誤り。合図は一定の方法と指示系統に統一し、意味の取り違えを防ぐ必要がある。

エ：誤り。無線も運転の合図として用いるなら、意味と指示者を一定にして誤認を防ぐ必要がある。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

総合解説：無線も運転の合図として用いるなら、意味と指示者を一定にして誤認を防ぐ必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0123

5-5 安全・異常時判断 > 作業前確認・強風などの環境判断 | 難易度：標準 | 形式：知識

実技対策の場面で、運転者または合図者が「安全装置の確認は月例検査で済んでいるので、その日の開始前は点検しない」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

ア：アウトリガーの敷板は地盤が多少沈下してから追加すればよい。

イ：風の影響は荷の質量だけで決まり、受風面積やつり上げ高さは考慮しない。

ウ：巻過防止装置、過負荷警報装置等の警報装置、ブレーキ、クラッチ、コントローラーの機能を点検することを優先する

エ：強風で荷があおられても、定格荷重以下なら作業を続ける。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。地盤支持力やアウトリガーの状態に異常があれば、荷を扱う前に据付条件を是正する必要がある。

イ：誤り。クレーン等安全規則第78条は、その日の作業開始前に安全装置・警報装置・ブレーキ・クラッチ・コントローラーの機能を点検することを求めている。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

ウ：正しい。クレーン等安全規則第78条は、その日の作業開始前に安全装置・警報装置・ブレーキ・クラッチ・コントローラーの機能を点検することを求めている。

エ：誤り。悪天候で危険が予想される場合は、作業継続ではなく中止・再評価を行う必要がある。

総合解説：クレーン等安全規則第78条は、その日の作業開始前に安全装置・警報装置・ブレーキ・クラッチ・コントローラーの機能を点検することを求めている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0124

5-5 安全・異常時判断 > 作業前確認・強風などの環境判断 | 難易度：応用 | 形式：事例

実技対策の場面で、運転者または合図者が「アウトリガーを設置してから沈下が見えた時だけ対応する」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

ア：作業開始前点検で警報装置に異常があっても、荷が軽ければ作業を始める。

イ：視界が低下しても、合図者がいる限り通常速度で運搬を続ける。

ウ：強風で荷があおられても、定格荷重以下なら作業を続ける。

エ：地盤の支持力と沈下のおそれを確認し、必要な敷板・補強・設置場所変更を行う

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。安全装置や制動機能の不良を運転者の注意で代替することはできない。

イ：誤り。悪天候で危険が予想される場合は、作業継続ではなく中止・再評価を行う必要がある。

ウ：誤り。悪天候で危険が予想される場合は、作業継続ではなく中止・再評価を行う必要がある。

エ：正しい。移動式クレーンの安定には地盤支持が重要であり、雨等で条件が変わった場合は据付前に再評価する必要がある。

総合解説：移動式クレーンの安定には地盤支持が重要であり、雨等で条件が変わった場合は据付前に再評価する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0125

5-5 安全・異常時判断 > 作業前確認・強風などの環境判断 | 難易度：標準 | 形式：判断

実技対策の場面で、運転者または合図者が「定格荷重以下なら風の強さに関係なく作業を続ける」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：作業の実施に危険が予想されるため、つり荷を安全な状態にして作業を中止することを優先する
- イ：作業経路の歩行者や車両は警報音で避けるため、事前の区域分離は不要とする。
- ウ：風の影響は荷の質量だけで決まり、受風面積やつり上げ高さは考慮しない。
- エ：強風で荷があおられても、定格荷重以下なら作業を続ける。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。クレーン等安全規則第74条の3は、強風のため作業の実施について危険が予想されるときは作業を中止するよう定めている。

イ：誤り。クレーン等安全規則第74条の3は、強風のため作業の実施について危険が予想されるときは作業を中止するよう定めている。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

ウ：誤り。クレーン等安全規則第74条の3は、強風のため作業の実施について危険が予想されるときは作業を中止するよう定めている。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

エ：誤り。悪天候で危険が予想される場合は、作業継続ではなく中止・再評価を行う必要がある。

総合解説：クレーン等安全規則第74条の3は、強風のため作業の実施について危険が予想されるときは作業を中止するよう定めている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0126

5-5 安全・異常時判断 > 作業前確認・強風などの環境判断 | 難易度：基礎 | 形式：判断

実技対策の場面で、運転者または合図者が「操作を止めただけで、ジブ姿勢や機体の安定は確認しない」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：風の影響は荷の質量だけで決まり、受風面積やつり上げ高さは考慮しない。
- イ：ジブの位置を固定するなど、機体の転倒を防止する措置を講じることを優先する
- ウ：降雨で地盤が軟化しても、朝に据付確認をしたためアウトリガー周辺は再確認しない。
- エ：作業開始前点検で警報装置に異常があっても、荷が軽ければ作業を始める。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。クレーン等安全規則第74条の4は、強風で作業を中止し転倒のおそれがあるとき、ジブの位置固定等の危険防止措置を求めている。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

イ：正しい。クレーン等安全規則第74条の4は、強風で作業を中止し転倒のおそれがあるとき、ジブの位置固定等の危険防止措置を求めている。

ウ：誤り。地盤支持力やアウトリガーの状態に異常があれば、荷を扱う前に据付条件を是正する必要がある。

エ：誤り。安全装置や制動機能の不良を運転者の注意で代替することはできない。

総合解説：クレーン等安全規則第74条の4は、強風で作業を中止し転倒のおそれがあるとき、ジブの位置固定等の危険防止措置を求めている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0127

5-5 安全・異常時判断 > 作業前確認・強風などの環境判断 | 難易度：基礎 | 形式：複合

実技対策の場面で、運転者または合図者が「荷の質量が同じなら風の影響も同じとみなす」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

ア：風の影響は荷の質量だけで決まり、受風面積やつり上げ高さは考慮しない。

イ：視界が低下しても、合図者がいる限り通常速度で運搬を続ける。

ウ：受風面積やつり上げ高さ、ジブ長さ等を考慮し、風による制御困難が予想されれば中止・条件変更することを優先する

エ：雷が接近しても、ジブが高いので避雷針の役割を考えると考えて作業を続ける。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。風の影響は質量だけでなく受風面積やつり荷の高さ、ジブ条件等によって変わる。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

イ：誤り。悪天候で危険が予想される場合は、作業継続ではなく中止・再評価を行う必要がある。

ウ：正しい。風の影響は質量だけでなく受風面積やつり荷の高さ、ジブ条件等によって変わる。

エ：誤り。悪天候で危険が予想される場合は、作業継続ではなく中止・再評価を行う必要がある。

総合解説：風の影響は質量だけでなく受風面積やつり荷の高さ、ジブ条件等によって変わる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0128

5-5 安全・異常時判断 > 作業前確認・強風などの環境判断 | 難易度：基礎 | 形式：事例

実技対策の場面で、運転者または合図者が「合図者が大声を出せば視界低下を補えるので、地盤確認なしで続ける」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

ア：強風で荷があおられても、定格荷重以下なら作業を続ける。

イ：降雨で地盤が軟化しても、朝に据付確認をしたためアウトリガー周辺は再確認しない。

ウ：風の影響は荷の質量だけで決まり、受風面積やつり上げ高さは考慮しない。

エ：作業を停止し、視界・地盤支持・排水状況を再確認して安全が確保できるまで再開しない

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。悪天候で危険が予想される場合は、作業継続ではなく中止・再評価を行う必要がある。

イ：誤り。地盤支持力やアウトリガーの状態に異常があれば、荷を扱う前に据付条件を是正する必要がある。

ウ：誤り。降雨は視界低下と地盤軟化の双方を引き起こし得るため、運転継続可否を総合的に判断する必要がある。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

エ：正しい。降雨は視界低下と地盤軟化の双方を引き起こし得るため、運転継続可否を総合的に判断する必要がある。

総合解説：降雨は視界低下と地盤軟化の双方を引き起こし得るため、運転継続可否を総合的に判断する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0129

5-5 安全・異常時判断 > 作業前確認・強風などの環境判断 | 難易度：標準 | 形式：判断

実技対策の場面で、運転者または合図者が「ジブが高いほど避雷針のように安全になると考えて作業を続ける」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：落雷・感電の危険を考慮して作業を中止し、安全な状態へ移す
イ：降雨で地盤が軟化しても、朝に据付確認をしたためアウトリガー周辺は再確認しない。
ウ：風の影響は荷の質量だけで決まり、受風面積やつり上げ高さは考慮しない。
エ：雷が接近しても、ジブが高いので避雷針の役割をすると考えて作業を続ける。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。雷接近時にジブが安全を保証するものではなく、悪天候で危険が予想される場合は作業を継続しない。
イ：誤り。地盤支持力やアウトリガーの状態に異常があれば、荷を扱う前に据付条件を是正する必要がある。
ウ：誤り。雷接近時にジブが安全を保証するものではなく、悪天候で危険が予想される場合は作業を継続しない。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。
エ：誤り。悪天候で危険が予想される場合は、作業継続ではなく中止・再評価を行う必要がある。
総合解説：雷接近時にジブが安全を保証するものではなく、悪天候で危険が予想される場合は作業を継続しない。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0130

5-5 安全・異常時判断 > 作業前確認・強風などの環境判断 | 難易度：標準 | 形式：判断

実技対策の場面で、運転者または合図者が「警報音を鳴らせば相手が避けるので、通行を止めず作業を開始する」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：風の影響は荷の質量だけで決まり、受風面積やつり上げ高さは考慮しない。
イ：作業前に通行を調整し、必要な立入禁止・誘導措置を行って経路を分離することを優先する
ウ：作業開始前点検で警報装置に異常があっても、荷が軽ければ作業を始める。
エ：雷が接近しても、ジブが高いので避雷針の役割をすると考えて作業を続ける。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。つり荷・上部旋回体との接触危険を減らすため、作業区域と他作業の動線を事前に整理する必要がある。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。
イ：正しい。つり荷・上部旋回体との接触危険を減らすため、作業区域と他作業の動線を事前に整理する必要がある。
ウ：誤り。安全装置や制動機能の不良を運転者の注意で代替することはできない。
エ：誤り。悪天候で危険が予想される場合は、作業継続ではなく中止・再評価を行う必要がある。
総合解説：つり荷・上部旋回体との接触危険を減らすため、作業区域と他作業の動線を事前に整理する必要がある。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0131

5-5 安全・異常時判断 > 作業前確認・強風などの環境判断 | 難易度：応用 | 形式：事例

実技対策の場面で、運転者または合図者が「作業中にジブが近づいた時だけ運転者が目測で避ける」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

ア：強風で荷があおられても、定格荷重以下なら作業を続ける。

イ：風の影響は荷の質量だけで決まり、受風面積やつり上げ高さは考慮しない。

ウ：作業開始前に電路との位置関係と感電防止措置を確認し、安全な経路・ジブ条件を決める

エ：作業経路の歩行者や車両は警報音で避けるため、事前の区域分離は不要とする。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。悪天候で危険が予想される場合は、作業継続ではなく中止・再評価を行う必要がある。

イ：誤り。架空電路近接作業では、事前に危険を把握して移設・防護・監視等の措置を講じることが必要である。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

ウ：正しい。架空電路近接作業では、事前に危険を把握して移設・防護・監視等の措置を講じることが必要である。

エ：誤り。架空電路近接作業では、事前に危険を把握して移設・防護・監視等の措置を講じることが必要である。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

総合解説：架空電路近接作業では、事前に危険を把握して移設・防護・監視等の措置を講じることが必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0132

5-5 安全・異常時判断 > 作業前確認・強風などの環境判断 | 難易度：標準 | 形式：判断

実技対策の場面で、運転者または合図者が「朝の作業開始前確認が済んでいるので、環境変化は確認せず再開する」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

ア：強風で荷があおられても、定格荷重以下なら作業を続ける。

イ：視界が低下しても、合図者がいる限り通常速度で運搬を続ける。

ウ：作業経路の歩行者や車両は警報音で避けるため、事前の区域分離は不要とする。

エ：再開前に風・地盤・機体据付・周囲状況を再確認し、必要なら作業条件を変更することを優先する

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。悪天候で危険が予想される場合は、作業継続ではなく中止・再評価を行う必要がある。

イ：誤り。悪天候で危険が予想される場合は、作業継続ではなく中止・再評価を行う必要がある。

ウ：誤り。作業環境は時間とともに変化するため、明らかな条件変化があれば開始前確認だけに頼らず再評価する必要がある。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

エ：正しい。作業環境は時間とともに変化するため、明らかな条件変化があれば開始前確認だけに頼らず再評価する必要がある。

総合解説：作業環境は時間とともに変化するため、明らかな条件変化があれば開始前確認だけに頼らず再評価する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0133

5-5 安全・異常時判断 > 機械・油圧・ワイヤロープ等の異常 | 難易度：応用 | 形式：事例

実技対策の場面で、運転者または合図者が「油圧がかかれば漏れが減ると考え、操作を続ける」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：荷を安全な状態にして運転を停止し、漏れの原因を点検・補修することを優先する
イ：普段と異なる金属音がしても、低速運転にすれば原因確認は後でよい。
ウ：ブレーキの保持が不安定でも、補助操作で止められるとして荷役を続ける。
エ：ワイヤロープにキンクがあっても、伸ばして見た目が戻れば使用する。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。油漏れは圧力低下や破損拡大の兆候であり、異常を認めた状態で運転を継続しない。
イ：誤り。油圧・機械の異常兆候を認めたら、継続運転で様子を見るのではなく停止して原因を確認する。
ウ：誤り。安全装置や制動機能の不良を運転者の注意で代替することはできない。
エ：誤り。ワイヤロープの使用条件を外れる損傷は、荷の軽重で許容せず使用を中止する必要がある。
総合解説：油漏れは圧力低下や破損拡大の兆候であり、異常を認めた状態で運転を継続しない。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0134

5-5 安全・異常時判断 > 機械・油圧・ワイヤロープ等の異常 | 難易度：標準 | 形式：判断

実技対策の場面で、運転者または合図者が「速度を落とせば音が小さくなるため、低速で作業を終える」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：油温が異常に上昇しても、作動油を継ぎ足すだけで作業を継続する。
イ：運転を停止して旋回装置等を点検し、原因が解消されるまで使用しない
ウ：ブレーキの保持が不安定でも、補助操作で止められるとして荷役を続ける。
エ：巻過防止装置が作動しなくても、運転者が目視できればそのまま使う。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。油圧・機械の異常兆候を認めたら、継続運転で様子を見るのではなく停止して原因を確認する。
イ：正しい。異音や異常振動は機械部の摩耗・損傷等の兆候となり得るため、継続運転より点検を優先する。
ウ：誤り。安全装置や制動機能の不良を運転者の注意で代替することはできない。
エ：誤り。停止・急停止の合図や危険兆候があるときは、予定工程より安全確保を優先する。
総合解説：異音や異常振動は機械部の摩耗・損傷等の兆候となり得るため、継続運転より点検を優先する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0135

5-5 安全・異常時判断 > 機械・油圧・ワイヤロープ等の異常 | 難易度：標準 | 形式：事例

実技対策の場面で、運転者または合図者が「作動油を追加するだけで原因確認をせず作業を続ける」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：油圧ホースから油がにじんでいても、圧力が上がれば漏れが止まるとして続ける。
イ：ワイヤロープにキンクがあっても、伸ばして見た目が戻れば使用する。
ウ：運転を停止して油量、冷却、フィルタ、回路異常等を確認することを優先する
エ：フックの外れ止めが機能しなくても、玉掛けを深く掛ければ使用できるとする。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。油圧・機械の異常兆候を認めたら、継続運転で様子を見るのではなく停止して原因を確認する。
イ：誤り。ワイヤロープの使用条件を外れる損傷は、荷の軽重で許容せず使用を中止する必要がある。
ウ：正しい。油温の異常上昇は油量不足、冷却不良、絞り損失等の異常を示す場合があり、原因確認が必要である。
エ：誤り。安全装置や制動機能の不良を運転者の注意で代替することはできない。
総合解説：油温の異常上昇は油量不足、冷却不良、絞り損失等の異常を示す場合があり、原因確認が必要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0136

5-5 安全・異常時判断 > 機械・油圧・ワイヤロープ等の異常 | 難易度：基礎 | 形式：知識

実技対策の場面で、運転者または合図者が「荷が軽ければキンク部分を伸ばしてそのまま使用する」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：フックの外れ止めが機能しなくても、玉掛けを深く掛ければ使用できるとする。
イ：普段と異なる金属音がしても、低速運転にすれば原因確認は後でよい。
ウ：ワイヤロープにキンクがあっても、伸ばして見た目が戻れば使用する。
エ：使用を中止し、規格・点検基準に基づいて交換等の処置を行う

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。安全装置や制動機能の不良を運転者の注意で代替することはできない。
イ：誤り。油圧・機械の異常兆候を認めたら、継続運転で様子を見るのではなく停止して原因を確認する。
ウ：誤り。ワイヤロープの使用条件を外れる損傷は、荷の軽重で許容せず使用を中止する必要がある。
エ：正しい。移動式クレーン構造規格では、ワイヤロープはキンクしていないことが求められている。
総合解説：移動式クレーン構造規格では、ワイヤロープはキンクしていないことが求められている。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0137

5-5 安全・異常時判断 > 機械・油圧・ワイヤロープ等の異常 | 難易度：基礎 | 形式：判断

実技対策の場面で、運転者または合図者が「外側だけの変化とみなし、定格荷重の半分以下なら使用する」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：運転を開始せず、当該ロープを適切に交換・補修対象として扱う
イ：ブレーキの保持が不安定でも、補助操作で止められるとして荷役を続ける。
ウ：巻過防止装置が作動しなくても、運転者が目視できればそのまま使う。
エ：フックの外れ止めが機能しなくても、玉掛けを深く掛ければ使用できるとする。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。著しい形崩れ又は腐食のあるワイヤロープは安全な使用条件を満たさない。
イ：誤り。安全装置や制動機能の不良を運転者の注意で代替することはできない。
ウ：誤り。停止・急停止の合図や危険兆候があるときは、予定工程より安全確保を優先する。
エ：誤り。安全装置や制動機能の不良を運転者の注意で代替することはできない。
総合解説：著しい形崩れ又は腐食のあるワイヤロープは安全な使用条件を満たさない。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0138

5-5 安全・異常時判断 > 機械・油圧・ワイヤロープ等の異常 | 難易度：標準 | 形式：知識

実技対策の場面で、運転者または合図者が「切断が20%未満なら使用できるとして継続する」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：ワイヤロープに著しい腐食があっても、荷が軽ければその日だけ使用する。
イ：安全な使用条件を満たさないため使用を中止することを優先する
ウ：油温が異常に上昇しても、作動油を継ぎ足すだけで作業を継続する。
エ：油圧ホースから油がにじんでいても、圧力が上がれば漏れが止まるとして続ける。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。ワイヤロープの使用条件を外れる損傷は、荷の軽重で許容せず使用を中止する必要がある。
イ：正しい。移動式クレーン構造規格では、一よりの間で索線の10%以上が切断していないことが条件とされる。
ウ：誤り。油圧・機械の異常兆候を認めたら、継続運転で様子を見るのではなく停止して原因を確認する。
エ：誤り。油圧・機械の異常兆候を認めたら、継続運転で様子を見るのではなく停止して原因を確認する。
総合解説：移動式クレーン構造規格では、一よりの間で索線の10%以上が切断していないことが条件とされる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0139

5-5 安全・異常時判断 > 機械・油圧・ワイヤロープ等の異常 | 難易度：標準 | 形式：知識

実技対策の場面で、運転者または合図者が「10%を超えるまでは使用できるとして継続する」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：油圧ホースから油がにじんでいても、圧力が上がれば漏れが止まるとして続ける。
- イ：ワイヤロープにキンクがあっても、伸ばして見た目が戻れば使用する。
- ウ：安全な使用条件を満たさないため使用を中止することを優先する
- エ：油温が異常に上昇しても、作動油を継ぎ足すだけで作業を継続する。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。油圧・機械の異常兆候を認めたら、継続運転で様子を見るのではなく停止して原因を確認する。
イ：誤り。ワイヤロープの使用条件を外れる損傷は、荷の軽重で許容せず使用を中止する必要がある。
ウ：正しい。移動式クレーン構造規格では、直径の減少が公称径の7%以下であることが条件とされる。
エ：誤り。油圧・機械の異常兆候を認めたら、継続運転で様子を見るのではなく停止して原因を確認する。
総合解説：移動式クレーン構造規格では、直径の減少が公称径の7%以下であることが条件とされる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0140

5-5 安全・異常時判断 > 機械・油圧・ワイヤロープ等の異常 | 難易度：標準 | 形式：事例

実技対策の場面で、運転者または合図者が「玉掛け用具をフック奥へ深く掛ければ外れ止めなしでも使用する」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：巻過防止装置が作動しなくても、運転者が目視できればそのまま使う。
- イ：ワイヤロープにキンクがあっても、伸ばして見た目が戻れば使用する。
- ウ：ワイヤロープに著しい腐食があっても、荷が軽ければその日だけ使用する。
- エ：荷を掛けずに使用を中止し、外れ止めを正常な状態へ補修することを優先する

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。停止・急停止の合図や危険兆候があるときは、予定工程より安全確保を優先する。
イ：誤り。ワイヤロープの使用条件を外れる損傷は、荷の軽重で許容せず使用を中止する必要がある。
ウ：誤り。ワイヤロープの使用条件を外れる損傷は、荷の軽重で許容せず使用を中止する必要がある。
エ：正しい。外れ止めは玉掛け用具の脱落を防止する安全機能であり、機能不良のまま使用しない。
総合解説：外れ止めは玉掛け用具の脱落を防止する安全機能であり、機能不良のまま使用しない。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0141

5-5 安全・異常時判断 > 機械・油圧・ワイヤロープ等の異常 | 難易度：標準 | 形式：事例

実技対策の場面で、運転者または合図者が「操作レバーで微調整すれば保持できるとして荷をつったまま続ける」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：荷を安全な位置へ下ろし、運転を中止してブレーキを点検・補修することを優先する
イ：ワイヤロープにキンクがあっても、伸ばして見た目が戻れば使用する。
ウ：ブレーキの保持が不安定でも、補助操作で止められるとして荷役を続ける。
エ：普段と異なる金属音がしても、低速運転にすれば原因確認は後でよい。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。作業開始前点検の対象にブレーキ機能が含まれ、保持不良は荷の落下につながる重大な異常である。
イ：誤り。ワイヤロープの使用条件を外れる損傷は、荷の軽重で許容せず使用を中止する必要がある。
ウ：誤り。安全装置や制動機能の不良を運転者の注意で代替することはできない。
エ：誤り。油圧・機械の異常兆候を認めたら、継続運転で様子を見るのではなく停止して原因を確認する。
総合解説：作業開始前点検の対象にブレーキ機能が含まれ、保持不良は荷の落下につながる重大な異常である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0142

5-5 安全・異常時判断 > 機械・油圧・ワイヤロープ等の異常 | 難易度：基礎 | 形式：判断

実技対策の場面で、運転者または合図者が「運転者が注意すれば代替できるとして装置故障のまま使用する」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：ワイヤロープに著しい腐食があっても、荷が軽ければその日だけ使用する。
イ：安全装置・警報装置を正常に復旧してから作業を再開することを優先する
ウ：油圧ホースから油がにじんでいても、圧力が上がれば漏れが止まるとして続ける。
エ：ブレーキの保持が不安定でも、補助操作で止められるとして荷役を続ける。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。ワイヤロープの使用条件を外れる損傷は、荷の軽重で許容せず使用を中止する必要がある。
イ：正しい。安全装置・警報装置は作業開始前点検の対象であり、機能不良の状態で通常作業を続けるべきではない。
ウ：誤り。油圧・機械の異常兆候を認めたら、継続運転で様子を見るのではなく停止して原因を確認する。
エ：誤り。安全装置や制動機能の不良を運転者の注意で代替することはできない。
総合解説：安全装置・警報装置は作業開始前点検の対象であり、機能不良の状態で通常作業を続けるべきではない。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0143

5-5 安全・異常時判断 > 緊急停止・感電危険・災害時対応 | 難易度：応用 | 形式：判断

実技対策の場面で、運転者または合図者が「予定の荷卸し位置まで移動してから停止する」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：架空電路に近いが、ジブが直接触れなければ感電しないとして防護措置を省略する。
イ：架空電線の近くでは電圧が高いほど安全で、接近しても放電しにくいと考える。
ウ：直ちに運転操作を止め、荷と周囲の安全を確認することを優先する
エ：感電事故が発生しても、周囲へ連絡せず作業を再開して原因を再現する。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。架空・充電電路には接触だけでなく接近による感電危険もあり、法定の防護・監視等が必要である。
イ：誤り。架空・充電電路には接触だけでなく接近による感電危険もあり、法定の防護・監視等が必要である。
ウ：正しい。急停止は目前の危険を回避するための合図であり、作業計画の継続より即時停止を優先する。
エ：誤り。架空・充電電路には接触だけでなく接近による感電危険もあり、法定の防護・監視等が必要である。
総合解説：急停止は目前の危険を回避するための合図であり、作業計画の継続より即時停止を優先する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0144

5-5 安全・異常時判断 > 緊急停止・感電危険・災害時対応 | 難易度：応用 | 形式：知識

実技対策の場面で、運転者または合図者が「運転者が電線を見ながら操作すればよいとして特別な措置を取らない」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：感電事故が発生しても、周囲へ連絡せず作業を再開して原因を再現する。
イ：災害後は機械が動けば使用可能と判断し、点検や関係者への連絡を省略する。
ウ：架空電線の近くでは電圧が高いほど安全で、接近しても放電しにくいと考える。
エ：電路の移設、囲い、絶縁用防護具などの措置を講じ、これらが著しく困難な場合は監視人を置く

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。架空・充電電路には接触だけでなく接近による感電危険もあり、法定の防護・監視等が必要である。
イ：誤り。労働安全衛生規則第349条は、充電電路への接触・接近で感電のおそれがある場合に移設・囲い・絶縁防護、困難時の監視を求めている。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。
ウ：誤り。架空・充電電路には接触だけでなく接近による感電危険もあり、法定の防護・監視等が必要である。
エ：正しい。労働安全衛生規則第349条は、充電電路への接触・接近で感電のおそれがある場合に移設・囲い・絶縁防護、困難時の監視を求めている。
総合解説：労働安全衛生規則第349条は、充電電路への接触・接近で感電のおそれがある場合に移設・囲い・絶縁防護、困難時の監視を求めている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0145

5-5 安全・異常時判断 > 緊急停止・感電危険・災害時対応 | 難易度：標準 | 形式：知識

実技対策の場面で、運転者または合図者が「絶縁被覆の有無にかかわらず、電線へ直接触れなければ感電しないと考える」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：直接触れなくても接近による放電の危険があるとして十分な離隔と防護を確保することを優先する
イ：充電電路の防護が困難でも、監視人を置かず運転者の目視だけで作業する。
ウ：架空電線の近くでは電圧が高いほど安全で、接近しても放電しにくいと考える。
エ：災害後は機械が動けば使用可能と判断し、点検や関係者への連絡を省略する。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。高圧電路では直接接触しなくても接近による放電が生じ得るため、接触回避だけでなく接近防止が必要である。

イ：誤り。架空・充電電路には接触だけでなく接近による感電危険もあり、法定の防護・監視等が必要である。

ウ：誤り。架空・充電電路には接触だけでなく接近による感電危険もあり、法定の防護・監視等が必要である。

エ：誤り。高圧電路では直接接触しなくても接近による放電が生じ得るため、接触回避だけでなく接近防止が必要である。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

総合解説：高圧電路では直接接触しなくても接近による放電が生じ得るため、接触回避だけでなく接近防止が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0146

5-5 安全・異常時判断 > 緊急停止・感電危険・災害時対応 | 難易度：標準 | 形式：事例

実技対策の場面で、運転者または合図者が「荷を手で押して電線から遠ざけるよう周囲の作業員へ指示する」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：異常発生時に原因確認より先に、荷を大きく振って危険区域から外そうとする。
イ：運転を停止し、周囲の人を機体・荷・ロープ等へ近づけず、関係者へ異常を知らせて安全な処置を取る
ウ：緊急時でも安全装置を解除すれば操作範囲が広がるため、解除を優先する。
エ：災害後は機械が動けば使用可能と判断し、点検や関係者への連絡を省略する。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。電氣的危険がある状態で機体や荷へ触れると感電経路になるおそれがあるため、人を近づけず安全な処置を優先する。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

イ：正しい。電氣的危険がある状態で機体や荷へ触れると感電経路になるおそれがあるため、人を近づけず安全な処置を優先する。

ウ：誤り。安全装置や制動機能の不良を運転者の注意で代替することはできない。

エ：誤り。電氣的危険がある状態で機体や荷へ触れると感電経路になるおそれがあるため、人を近づけず安全な処置を優先する。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

総合解説：電氣的危険がある状態で機体や荷へ触れると感電経路になるおそれがあるため、人を近づけず安全な処置を優先する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0147

5-5 安全・異常時判断 > 緊急停止・感電危険・災害時対応 | 難易度：基礎 | 形式：判断

実技対策の場面で、運転者または合図者が「機械が動作することだけ確認して、同じ荷で直ちに作業を再開する」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

ア：感電事故が発生しても、周囲へ連絡せず作業を再開して原因を再現する。

イ：架空電線の近くでは電圧が高いほど安全で、接近しても放電しにくいと考える。

ウ：作業を停止し、機械・ロープ・つり具・荷の状態を点検して安全が確認されるまで再開しない

エ：急停止の合図を受けても、つり荷を予定位置まで移動してから停止する。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。架空・充電電路には接触だけでなく接近による感電危険もあり、法定の防護・監視等が必要である。

イ：誤り。架空・充電電路には接触だけでなく接近による感電危険もあり、法定の防護・監視等が必要である。

ウ：正しい。事故・異常な衝撃の後は、目視だけでなく関係部位の異常を確認し、危険要因を除いてから再開する必要がある。

エ：誤り。停止・急停止の合図や危険兆候があるときは、予定工程より安全確保を優先する。

総合解説：事故・異常な衝撃の後は、目視だけでなく関係部位の異常を確認し、危険要因を除いてから再開する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0148

5-5 安全・異常時判断 > 緊急停止・感電危険・災害時対応 | 難易度：応用 | 形式：事例

実技対策の場面で、運転者または合図者が「操作量を大きくして圧力を上げ、応答が戻るか試す」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

ア：感電事故が発生しても、周囲へ連絡せず作業を再開して原因を再現する。

イ：災害後は機械が動けば使用可能と判断し、点検や関係者への連絡を省略する。

ウ：架空電路に近いが、ジブが直接触れなければ感電しないとして防護措置を省略する。

エ：急な操作を避けて可能な範囲で荷を安全な状態にし、運転を中止して原因を確認することを優先する

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。架空・充電電路には接触だけでなく接近による感電危険もあり、法定の防護・監視等が必要である。

イ：誤り。複数の油圧異常兆候が同時に出た場合、無理な操作で補うより安全な停止と点検を優先する。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

ウ：誤り。架空・充電電路には接触だけでなく接近による感電危険もあり、法定の防護・監視等が必要である。

エ：正しい。複数の油圧異常兆候が同時に出た場合、無理な操作で補うより安全な停止と点検を優先する。

総合解説：複数の油圧異常兆候が同時に出た場合、無理な操作で補うより安全な停止と点検を優先する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0149

5-5 安全・異常時判断 > 緊急停止・感電危険・災害時対応 | 難易度：基礎 | 形式：事例

実技対策の場面で、運転者または合図者が「反対側へ旋回して荷を振り、機体の傾きを相殺しながら続ける」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：直ちに操作を中止し、可能な範囲で荷を安全にし、周囲を退避させて地盤・据付を再評価することを優先する
イ：急停止の合図を受けても、つり荷を予定位置まで移動してから停止する。
ウ：異常発生時に原因確認より先に、荷を大きく振って危険区域から外そうとする。
エ：感電事故が発生しても、周囲へ連絡せず作業を再開して原因を再現する。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。機体傾斜やアウトリガー沈下は転倒につながる兆候であり、荷の操作で相殺しようとせず作業を止める必要がある。

イ：誤り。停止・急停止の合図や危険兆候があるときは、予定工程より安全確保を優先する。

ウ：誤り。機体傾斜やアウトリガー沈下は転倒につながる兆候であり、荷の操作で相殺しようとせず作業を止める必要がある。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

エ：誤り。架空・充電電路には接触だけでなく接近による感電危険もあり、法定の防護・監視等が必要である。

総合解説：機体傾斜やアウトリガー沈下は転倒につながる兆候であり、荷の操作で相殺しようとせず作業を止める必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07

Q0150

5-5 安全・異常時判断 > 緊急停止・感電危険・災害時対応 | 難易度：基礎 | 形式：判断

実技対策の場面で、運転者または合図者が「緊急時は通常の制限が不要として、安全装置を解除して操作範囲を広げる」と判断した。安全上の是正として最も適切なものはどれか。

- ア：緊急時でも安全装置を解除すれば操作範囲が広がるため、解除を優先する。
イ：安全装置を無効化せず、機械の取扱方法と現場の安全手順に従って危険を除去することを優先する
ウ：災害後は機械が動けば使用可能と判断し、点検や関係者への連絡を省略する。
エ：急停止の合図を受けても、つり荷を予定位置まで移動してから停止する。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。安全装置や制動機能の不良を運転者の注意で代替することはできない。

イ：正しい。緊急時こそ安全装置を無効化せず、二次災害を防ぐ手順で対応する必要がある。

ウ：誤り。緊急時こそ安全装置を無効化せず、二次災害を防ぐ手順で対応する必要がある。この選択肢は安全な運転・合図の原則と一致しない。

エ：誤り。停止・急停止の合図や危険兆候があるときは、予定工程より安全確保を優先する。

総合解説：緊急時こそ安全装置を無効化せず、二次災害を防ぐ手順で対応する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-07